



環境報告書2012

環境報告書2012



独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構



はじめに

NEDOは、日本最大の中核的技術開発推進機関として、企業、大学、公的研究機関の叡智を結集して、エネルギー・地球環境問題の解決と日本の産業技術力の強化を目指した技術開発、実証研究等に取り組んでいます。

2011年3月に発生した東日本大震災及び福島第一原発事故以降、日本のエネルギー供給のベストミックスについて様々な場で国民的な議論が行われ、再生可能エネルギーに対する関心や実用化への期待がかつてないほど高まっています。これまで、省エネルギー・新エネルギー技術開発等に長年取り組んできたNEDOとしても、このような社会ニーズの変化に速やかに応えるべく、再生可能エネルギーの普及に向けた一層のエネルギー効率化・低コスト化の技術開発や、スマートグリッド技術や蓄電池技術を核としたスマートコミュニティ構築のための国際実証等に、より積極的に取り組んで参ります。

また、こうした技術開発等への取り組みにより、地球温暖化等の環境問題の解決に貢献するとともに、NEDOの業務活動においても、「温室効果ガス排出抑制等のための実施計画」を策定し、節電やグリーン調達、紙の使用量や廃棄物量の削減等に取り組んでいます。

以上のNEDO事業活動における地球環境問題への取り組みや業務活動における地球環境への配慮等の内容について、環境報告書2012として取りまとめましたので、ここにご報告いたします。







2012年9月
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
理事長 古川 一夫

CONTENTS ~目次~



編集方針、NEDO概要

-  編集方針 5
-  1、NEDOとは 6
-  2、Special Topic 2012 8





環境負荷低減に係る取り組み

-  3、環境配慮の基本的な考え方 12
-  4、温室効果ガス排出抑制の取り組み 13
-  5、グリーン調達に関する取り組み 17
-  6、環境負荷低減への取り組み 19

プロジェクトを通じた地球環境への貢献

-  7、プロジェクトを通じた環境問題への貢献 24
-  8、再生可能エネルギーの普及にむけた支援ツールとデータベース 35

社会的取り組みの状況

-  9、社会とのコミュニケーション 38
-  10、コンプライアンス等に関する取り組み 43
-  11、人材育成への取り組み 45
-  12、快適な職場環境づくり 46
- 事務所所在地等 48



編集方針、NEDO概要

NEDOは、日本の産業技術とエネルギー・環境分野の技術開発及びその普及を推進しています。この章では環境報告書の編集方針とNEDOの概要、2012年度の目覚ましい成果についてご報告します。

編集方針

「環境報告書2012」は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下、NEDO)の発行する7度目の環境報告書として、2011年度のデータをもとに作成しました。

本報告書は、NEDOにおける環境配慮活動の概要等を取りまとめ、国民の皆様に分かりやすい形で情報開示をするとともに、自らも今後の取組の更なる向上に役立てることを目的として作成したものです。

報告対象範囲:神奈川県川崎市にある本部を中心として報告いたします。

報告対象期間:2011年4月～2012年3月

報告対象分野:報告対象範囲における環境配慮に関する事項及び社会的取り組みの状況

参考にしたガイドラインなど:

- 「環境報告ガイドライン(2012年度版)」(環境省)
- 「環境報告書の記載事項等の手引き(第2版)」(環境省)

次回発行予定:2013年6月を予定

作成部署及び連絡先:

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 総務企画部総務課
〒212-8554

神奈川県川崎市幸区大宮町1310ミューザ川崎セントラルタワー 17階
電話:044-520-5100 FAX:044-520-5103

本報告書に関するご意見、ご質問は上記までお願いいたします。
なお、資源の節約のため、本報告書は印刷を行わず、NEDOのウェブサイトからダウンロードしていただくことを基本としております。



NEDOウェブサイト
<http://www.nedo.go.jp/>



「情報公開」→「その他の公表事項」→「環境配慮に向けた取り組み」に掲載

1、NEDOとは

NEDOは、日本の中核的技術開発推進機関として、以下の事項をミッションとして、経済産業省との密接な連携の下、エネルギー・環境分野等のイノベーションの促進に取り組む政策実施機関です。民間企

業、大学、公的研究機関等との連携により、産学官の叡智を結集し、また、国際的なネットワークを活かし、より高度なプロジェクト運営を推進するべく努めています。

ミッション

エネルギー・地球環境問題の解決への貢献

新エネルギー・省エネルギー技術等に関し、技術開発、実証試験、導入助成等の業務を実施することによって、新エネルギーの利用拡大とさらなる省エネルギーを推進します。加えて、国内事業で得られた知見をもとに、海外における技術の実証、協力体制構築のための国際的ネットワーク形成等を推進します。これらの事業の実施により、エネルギーの安定供給と地球環境問題の解決に貢献します。

産業技術の国際競争力強化

将来の産業競争力の源泉となる産業技術について、技術シーズの発掘、産業競争力の基盤形成のための中長期的プロジェクト及び実用化開発までの各段階の技術開発を実施し、日本の産業競争力強化及び新技術の市場化を図ります。

事業内容

ナショナルプロジェクト事業

グリーンイノベーション、ライフイノベーションなどにおける重要な産業技術において、企業単独ではリスクが高く実用化に至らない共通基盤技術の開発(技術の実証を含む)について、各企業などが強みを有する技術力に加え、大学などが有する開発能力を最適に組み合わせ、ナショナルプロジェクトとして技術開発を行います。

京都メカニズムクレジット取得事業

地球規模での温暖化防止と、途上国の持続可能な開発への支援を図るという観点を踏まえつつ、京都議定書における我が国の約束を確実かつ費用効果的に達成するため、京都メカニズムクレジットの取得を行います。

技術シーズ育成事業

産業技術力強化の観点から、大学などに所属する若手研究者が取り組む産業応用を意図した研究開発に対して助成を行います。

国際関連事業

日本のさまざまなエネルギー・環境技術を世界各地で実証導入し、国際標準の獲得などを通じてグローバル市場の拡大を後押しすると共に、世界各国との国際的ネットワークを築き、協力関係を結びながらエネルギー・環境問題の解決に貢献します。

実用化・事業化促進事業

エネルギー・環境技術などの重点分野において、実用化に近い段階の企業の技術開発に対して助成を行い、実用化・事業化の加速を通じて、経済の活性化を図ります。

新エネルギー・省エネルギー導入普及事業

我が国のエネルギーの安定供給と、地球温暖化問題の解決に資するため、新エネルギー・省エネルギー等の技術の実証導入を行い、得られた知見をさらなる技術開発にフィードバックします。

沿革

- 1980年10月 石油代替エネルギーの開発及び導入の促進に関する法律の制定に伴い、特殊法人「新エネルギー総合開発機構」として設立される
- 1988年10月 産業技術研究開発業務が追加され、名称が「新エネルギー・産業技術総合開発機構」に改められる
- 2002年12月 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構法が成立、公布される
- 2003年10月 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構として設立される

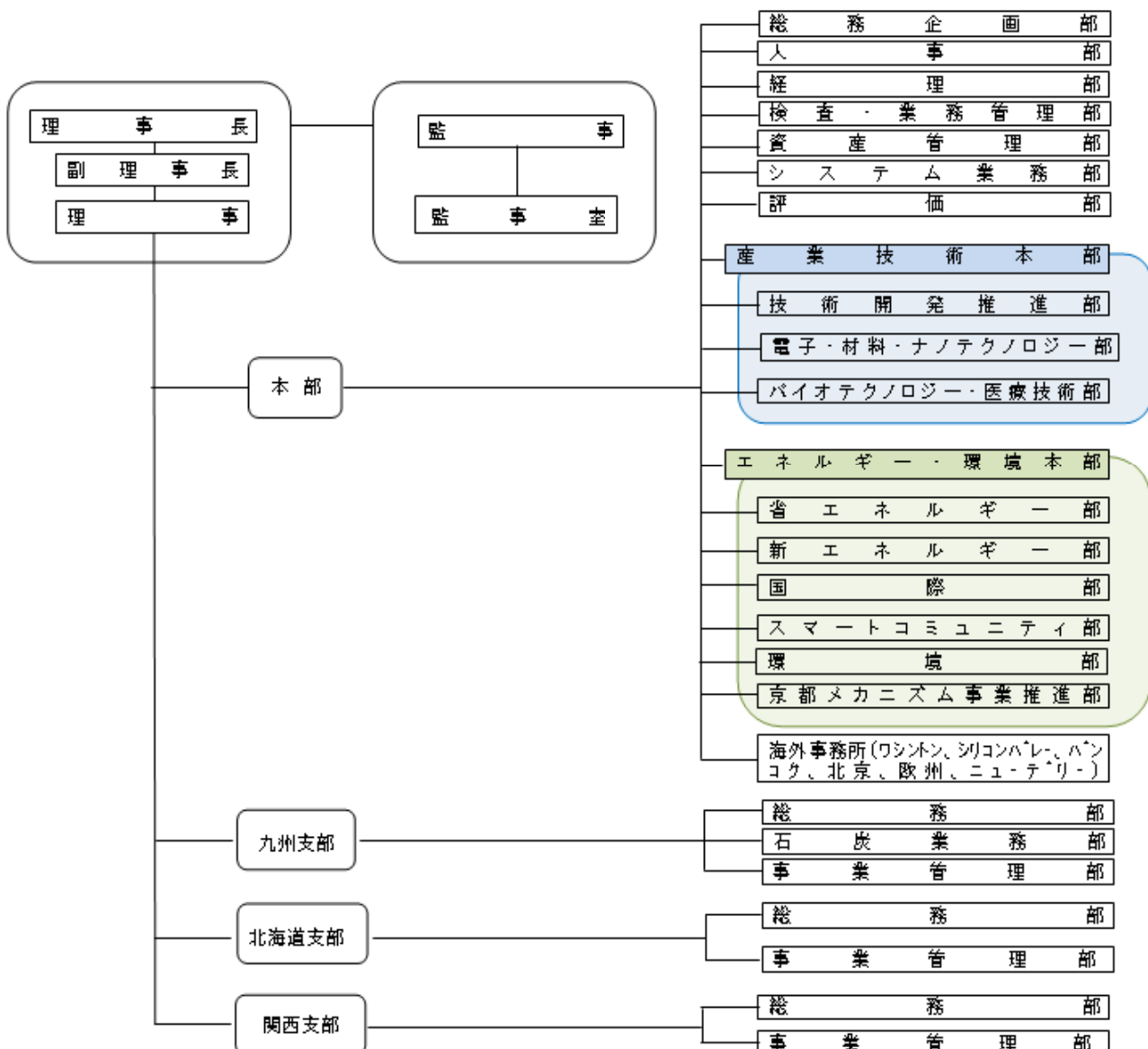
人員

職員数 約900名

予算

約1,369億円(2012年度)

組織(2012. 4. 1現在)





環境や人に優しい持続型社会、「スマートコミュニティ」の構築

地球環境問題への対応は、新興国の経済成長とともに、ますます重要かつ国際的な課題となっています。他の先進国と協調して、環境に優しいグローバルな社会の形成に貢献することは日本の使命です。また、国内でも東日本大震災を受け、エネルギー供給をより分散し、安

定した供給体制に変革していくことが求められています。こうした国内外を取り巻く様々な課題に対し、個々の技術での解決を目指すのではなく、あらゆる技術を組み合わせ、情報通信技術(ICT)を用いてパッケージ化し、解決を目指していくのがスマートコミュニティです。

日本の優れた技術を世界各地へ展開

NEDOでは、日本の優れた技術をパッケージ化して世界各地に展開することにより、低炭素社会を構築することを目的として、スマートコミュニティ海外実証事業を推進しています。

2011年度は、米国ニューメキシコ州での新エネルギーの大量導入に向けた系統対策を中心とする実証事業を開始しました。また、各国で進めるFS(フィージビリティ・スタディ)調査の結果を踏まえ、新たに米国ハワイ、フランス・リヨンの2地域において、各国政府機関とMOU(基本協定書)を締結し、実証フェーズに移行しました。

またマレーシアでは、同国の2都市(プトラジャヤ、サイ

バージャヤ)における低炭素都市化のアクションプランを作成しました。日本がこれまで苦手とされてきた都市開発プランの作成段階から参画し、同国の今後のスマートコミュニティ導入における日本産業の優位性確保や低炭素社会の実現に向けた取り組みに貢献しています。



ハワイ州政府とのMOU締結(2011年11月22日)

今後の展開

今後、日本や先進各国はもとより、人口増加と経済成長の著しいアジアを中心とした新興国において、スマートコミュニティの必要性が増大する見込みです。こうした情勢を踏まえ、日本の優れた技術をシステムとして構築することで、世界を舞台に貢献していきます。そのためには、優

れた技術や素材を有する企業がお互いに手を組み、官民一体となった「オールジャパン」体制で海外へのビジネス展開を図ることが求められています。それに至る実証、標準化、政府間交渉をトータルで担うための中心的な役割をNEDOは担っていきます。

現場で使用されているロボットプロジェクトの成果

復旧・復興作業で活躍するロボット技術

2011年3月に発生した東日本大震災の復旧・復興に向けた取り組みの中で、NEDOの「戦略的先端ロボット要素技術開発プロジェクト」で開発されたロボットが現場の復旧作業に大きく貢献しました。

同プロジェクトで開発された「Quince」は、被災現場での情報収集を目的に造られたもので、階段昇降や瓦礫走破などの運動性能が非常に優れたロボットです。東日本大震災を受けて、現場投入に向けた改良を行い、人が近



現場投入された「改良型Quince(クインス)」

づくことができなくなった福島第一原子力発電所建屋内で、放射線測定等の環境モニタリングで使用されました。

また、同プロジェクトで開発された双腕作業機「アスタコネオ」は、解体工事現場等での効率的な作業を可能とすることを目的に開発されたものです。津波の被害を受けた宮城県へ投入され、様々な物が絡まり合う瓦礫の中などスペースが無い場所で、津波で流された建造物の撤去作業を行い、復旧・復興作業に貢献しました。なお、本ロボットは2012年9月より販売を開始し、商用化されています。



瓦礫撤去作業を行う「ASTACO NEO(アスタコネオ)」

海洋エネルギー技術研究開発を立ち上げ

波力、潮力による発電技術の開発がスタート

海洋エネルギー(波力、潮力、海流、海洋温度差等)発電技術については、これまでは欧米を中心として技術開発が行われてきました。

一方、日本では、大学を中心として研究開発が進められてきましたが、実用化に向けては、より一層の発電効率の向上や耐久性の向上、監視、制御システムの高度化などが必要です。

本事業では、これらの海洋エネルギー発電技術について、革新的な技術シーズの育成、海洋エネルギー発電システムの開発、実海域での実証研究等を多角的に実施することにより、海外市場をリードする技術を創出することを目的としています。



波力発電装置



潮流発電装置

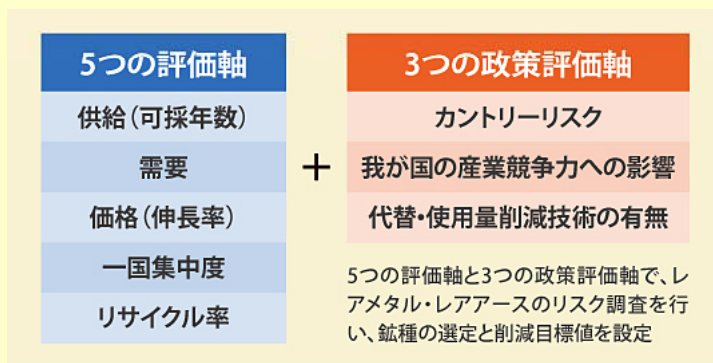
レアメタルの供給不安に、「技術という資源」で立ち向かう

6鉱種14のテーマで、技術開発を推進

レアメタル・レアアース(希少金属)は材料の特性を向上させる効果を持ち、「産業のビタミン」と呼ばれています。NEDOでは、昨今の供給不安が顕在化する前からレアメタル・レアアースのリスク調査を行い、サプライチェーンと産業へのインパクトを評価し、「削減」「低減」「代替」「リサイクル」といったさまざまな角度から技術開発を推進してきました。

液晶ディスプレイやスマートフォンのタッチパネルの透明電極(インジウム)、ハイブリッド車や電気自動車のモータ

(ジスプロシウム)、金属等を加工する超硬工具(タングステン)、自動車の排ガスを浄化するための触媒(白金、セリウム)、ガラスやレンズの研磨材(セリウム)、蛍光灯やLEDの蛍光体(テルビウム・ユロピウム)に使用されているレアメタルの使用量を低減、あるいは代替するため、これら6つの鉱種について14テーマの技術開発を実施しました。2011年度にはインジウム、ジスプロシウム、タングステンに関する5テーマが終了し、約2~5割の使用量低減技術や代替技術の開発に成功しました。



様々なレアメタルとその用途例

微小ながんの治療を可能に～高精度X線治療機器～

がん病巣をリアルタイムで追跡、X線をピンポイント照射

がんは、直径1cm以下であれば、放射線治療により90%以上が有効に治療できると言われています。しかし、がん病巣は体の動きに伴い複雑な動きをするため、周辺の正常組織に影響を与えない治療が困難でした。

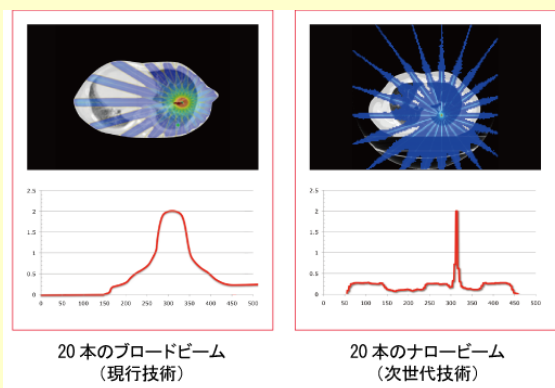
この問題を解決するため、NEDOは、がんの位置を正確に把握・追跡し、がん病巣にピンポイントでX線を照射する高精度X線治療システムを開発しています。

このシステムは、従来機器の約2倍のX線強度をもち、X線ビームの照射野を直径3mm程度(従来の約60%)まで絞り込んでいます。更に装置の小型化とロボットアームにより、あらゆる方向からのX線照射が可能です。また、高精度な動体追跡装置が組み込まれ、身体の中で動く微小ながんもリアルタイムに追跡します。


この治療システムにより、微小ながんを他の正常組織に影響を及ぼすことなく治療することが可能となり、患者の早期社会復帰を促すことが期待されています。



治療室に設置された高精度X線治療システム



照射するX線の幅と強さ
(従来よりも幅の細いビームで、X線をがん病巣に集中照射)
提供:(株)アキュセラ



環境負荷低減に係る取り組み

NEDO自身が事業活動に伴って排出する温室効果ガスについて、2011年度の排出量、排出を抑制する取り組み、環境に配慮した物品の調達等の、環境負荷低減に向けた取り組みをその基本的な考え方とともにご報告します。

3、環境配慮の基本的な考え方

NEDOは、世界中で関心が高まっている地球温暖化問題をはじめとした環境問題、エネルギー問題に対し、事業の遂行を通じ、また自らの行動においても積極的に取り組んでいます。

NEDOは、二酸化炭素(CO₂)など6種類の温室効果ガスについて先進国の排出削減目標を定めた京都議定書において、日本政府が国際的に約束した2008～2012年の間に、90年比▲6%という目標を達成するため、環境技術、省エネ技術及び新エネ技術の研究開発とそれらの普及という、技術イノベーションを通じて貢献しています。

また、日本の京都議定書目標達成計画において、上記90年比▲6%のうち1.6%分は海外からクレジットを調達することなどにより達成することとしており、NEDOは、国(経済産業省・環境省)からの委託を受け、海外の排出クレジットの調達を実施しています。

NEDOは、自らも、温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組み、京都議定書の目標達成に貢献しています。

● オフィスフロアで消費する電気使用量の削減などにより温室効果ガス排出削減に取り組んでいます。

● 物品やサービスを購入する場合も、できる限り環境への負荷の少ないものを購入するというグリーン調達を進めています。

● 研究成果をわかりやすく発信していきます。最新の環境技術、エネルギー技術に関する展示会開催・出展やセミナーの開催、小学生を対象にした新エネルギーの啓発イベント、図解した分かりやすい資料や情報の提供等を通じ、環境問題の啓発活動に積極的に取り組んでいます。

● 紙の使用量の削減、ごみの分別収集、安全衛生活動等についても積極的に取り組んでいます。

4、温室効果ガス排出抑制の取り組み

温室効果ガス排出抑制等のための実施計画

「京都議定書目標達成計画」及び「政府がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の抑制等のため
Oにおける温室効果ガスの排出抑制等のための実施
計画を2007年7月2日に策定し、公表しました。
実行すべき措置について定める計画」に基づき、NED



http://www.nedo.go.jp/jyohoukoukai/kankyuu/onshitu_jisshi_h19.pdf

<計画の内容>

I. 対象となる事務及び事業

NEDO(本部、支部等)が主として行う事務及び事業

II. 対象期間

2007年度から2012年度まで。その実施の状況、技術の進歩等を踏まえ、必要に応じ、見直しを図る。

III. 目標

2006年度比で年度までにNEDOの事務及び事業に伴い直接的に排出される温室効果ガスの総排出量を概ね6%削減する。

IV. 事務及び事業に伴い排出される温室効果ガスの排出実態

当該計画期間中、毎年度、NEDOの事務及び事業に伴い排出される温室効果ガスの総排出量の推計を行い、環境報告書にて公表する。

V. 具体的な措置の内容

1. 財やサービスの購入・使用に当たっての配慮

- (1)低公害車の導入
- (2)自動車の効率的利用
- (3)エネルギー消費効率の高い機器の導入
- (4)用紙類の使用量の削減
- (5)再生紙などの再生品や木材の活用
- (6)HFCの代替物質を使用した製品等の購入・使用の促進等

2. 建築物の建築、管理等に当たっての配慮

- (1)冷暖房の適正な温度管理

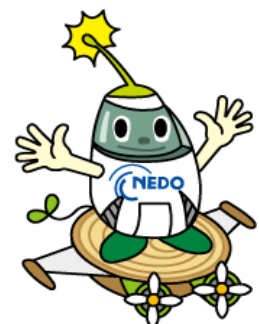
3. その他の事務・事業に当たっての温室効果ガスの排出の抑制等への配慮

- (1)エネルギー使用量の抑制
- (2)ごみの分別
- (3)廃棄物の減量

4. 職員に対する研修等

- (1)職員に対する地球温暖化対策に関する研修の機会の提供、情報提供

5. 実施計画の推進体制の整備と実施状況の点検



温室効果ガス排出削減計画

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構温室効果ガス排出削減計画

		2006年度	2012年度目標
(単位)			(2006年度比)
機構車燃料	kg-CO ₂	61,428	
施設のエネルギー使用	kg-CO ₂	1,199,367	
電気	kg-CO ₂	888,186	
	(電気使用量) kWh	2,401,633	
(電気の排出係数)	kg-CO ₂ /kWh	2,202,000kWh	
		は0.368	
		38,397kWh	
		は0.502	
		39,444kWh	
電気以外	kg-CO ₂	は0.358	
		121,792kWh	
	は0.365		
電気以外	kg-CO ₂	311,181	
その他	kg-CO ₂	0	
合計(暫定値)	kg-CO ₂	1,260,796	1,185,147 (-6%)
合計(確定値)(注)	kg-CO ₂	894,390	840,727 (-6%)

(注)2007年7月2日、実施計画において公表した2006年度排出量1,260,796kg-CO₂について、以下の変更を行うことにより、確定値とし894,390kg-CO₂に変更しました。その結果、2012年度の目標は、840,727kg-CO₂になります。

○ 電気の使用に係る温室効果ガス排出係数について、2005年度の電気事業者別排出係数を、2006年度の電気事業者別排出係数(2007年9月27日経済産業省・環境省告示第8号)に更新して推計しました。

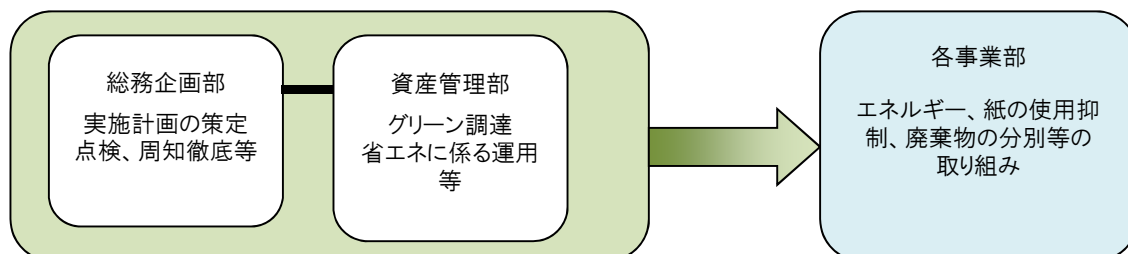
○ NEDOが入居するMUZA川崎セントラルタワー等の共益費部分(空調用電気、保安照明用電気及び熱)の床面積相当分の排出量を計上していましたが、この部分はエネルギー管理権限を有するオーナー側の排出量として 国に報告されているため除外しました。

実施計画の推進体制

温室効果ガス排出抑制等のための実施計画の策定・評価・点検は、総務企画部において実施し、各事業部等への周知徹底、啓発等を推進しております。また、毎年度本計画の実施状況について、自主的に点検を行うとともに、必要に応じ、本計画の見直しを図つ

ています。

なお、本部オフィスのグリーン調達や省エネルギーに係る実際の運用は、資産管理部から各部室へ周知促進を図っています。



2010年度の温室効果ガス排出量の更新(確定値)について

2011年6月24日のNEDOウェブサイト及び「環境報告書2011」において公表した2010年度の総排出量619,049kg-CO₂(暫定値)は、公表時点で最新の「電気の使用に係る温室効果ガス排出係数」であった「平成21年度(2009年度)の電気事業者別排出係数(2010年12月27日経済産業省・環境省告示)」を用いて推計したものでしたが、その後、「平成22年度

(2010年度)の電気事業者別排出係数(2012年1月17日経済産業省・環境省告示)」が公表されましたので、当該排出係数を用いて再計算し、2010年度のNEDOの総排出量を616,990kg-CO₂に補正しました。当該情報は、2012年6月29日付でウェブサイトにて公開しています。

2011年度の温室効果ガス排出量(暫定値)について

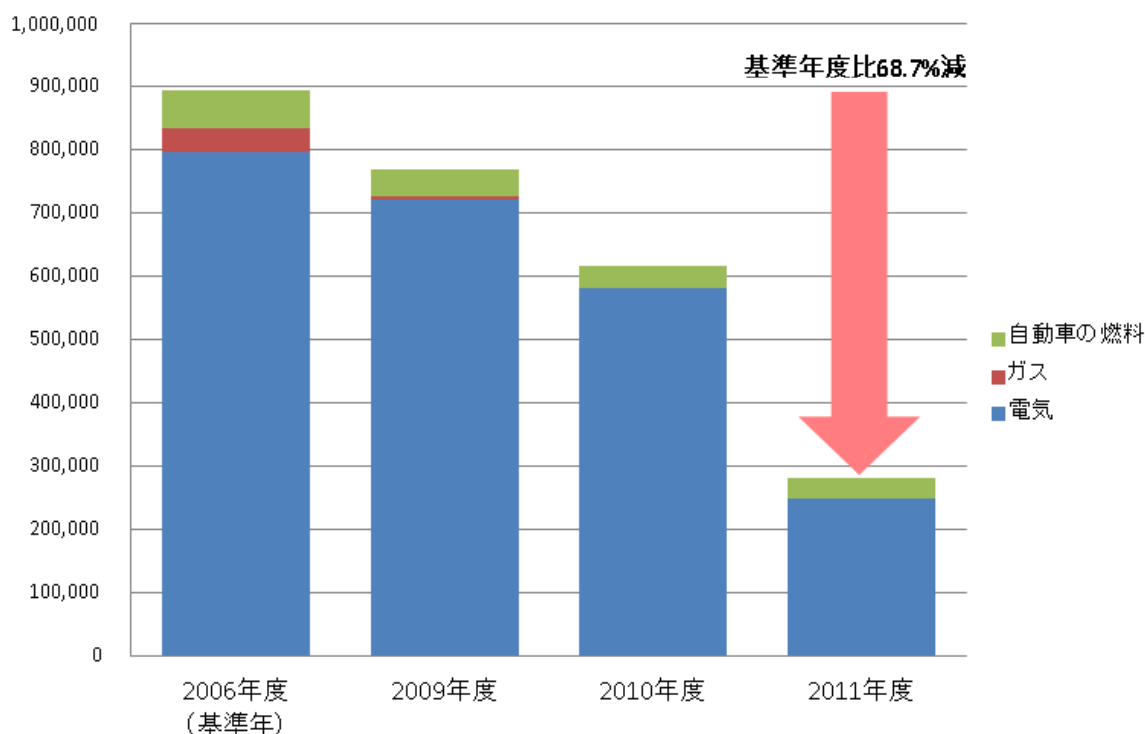
2011年度のNEDOの温室効果ガス排出量については、現時点において、2011年度の電気事業者別排出係数が公表されていないため、暫定的に「平成22年度(2010年度)の電気事業者別排出係数」を用いて推計した結果、280,332kg-CO₂(暫定値)となりました。これはエネルギー使用量で基準年度比71.3%減、CO₂換算で基準年度比68.7%減の量となっています。

2011年度排出量のうち、電気の使用によるものが約88%を占め、残りの12%が自動車の燃料使用によ

るものでした。ガス使用によるものは、ガスを使用する施設の閉鎖に伴い2010年度以降は発生していません。

電気使用に関しては、2010年度にクラウド・コンピューティングを導入(2010年11月)し、サーバに係る電力のみならず職員一人ひとりが使用する端末の電力消費量も大幅に低減しました(詳しくは「環境負荷低減への取り組み」をご覧ください。)。この効果は、2011年度以降、より大きな削減効果としてあらわれています。

2009年度～2011年度の排出量の内訳及び推移



2011年度の排出量(確定値)について

2011年度の温室効果ガス排出量の確定値は、今後公表される予定の2011年度の電気事業者別排出係数を用いて再計算し、次年度の温室効果ガス排出

量の推計を行う際に、再度確定値として公表する予定です。

今後の取り組み

実施計画に掲げた「平成24年度(2012年度)までに平成18年度(2006年度)比6%削減」という目標については、現時点において達成していますが、エネルギー・環境問題の解決に貢献する技術開発に取り組

む組織として、今後も引き続き空調温度の適正化、電気製品の使用電力の削減、執務室照明の間引き点灯等の賃貸オフィスで可能な使用エネルギーの抑制に取り組んでいきます。



5、グリーン調達に関する取り組み

NEDOは、2001年4月に施行された「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づき、製品やサービスの購入に際し、できる限り環境への負荷の少ない物品等を優先して選ぶグリーン調達を進めています。

また、グリーン調達を推進するため、「環境物品等の調達の推進を図るための調達方針」(以下「調達方針」という。)を毎年策定し公表しています。



2011年度調達方針 http://www.nedo.go.jp/koubo/choutatu_houshin_h23.html

調達の目標

○特定調達物品

特定調達物品は、原則として、調達方針に則し、品目毎に判断の基準を満たす物品を調達します。

基本方針に定める判断基準を満たすことにとどまらず、できる限り環境負荷の少ない物品の調達に努めます。

○特定調達物品以外のその他環境物品等

その他の環境物品については、品目に応じてエコマーク或いはグリーンマークの認定を受けている製品またはこれと同等のものを調達するように努めます。

OA機器、家電製品の調達に際しては、より消費電力が小さく、かつ再生材料を多く使用しているものを選択します。

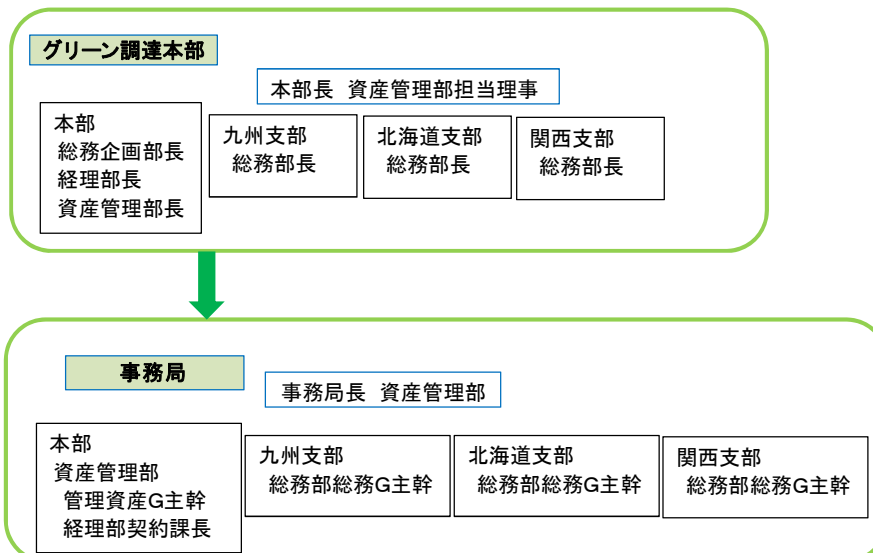


各年度の調達方針はNEDOウェブサイトで公開中

グリーン調達の推進体制

NEDOにおいて、資産管理部担当理事を本部長とし、本部員(本部総務企画部長、経理部長、資産管理部長、各支部総務部長)で構成される「グリーン調

達推進本部」を設けて、グリーン調達の推進を図っています。



2011年度の実績

2011年度に調達した特定調達品実績は、環境省へ報告すると同時に、NEDOのウェブサイトでも公表しています。

 http://www.nedo.go.jp/koubo/choutatu_jisseki_23_index.html

2011年度に調達した主な特定調達品は、以下の通りです。

分野	品目	目標値	総調達量	特定調達物品の 調達量	目標達成 率	
紙類	コピー用紙	100 %	35700 kg	35700 kg	100 %	
文具類	ボールペン	100 %	1650 本	1650 本	100 %	
	マーキングペン	100 %	2162 本	2162 本	100 %	
	ファイル	100 %	8806 冊	8806 冊	100 %	
	ファイリング用品	100 %	4209 個	4209 個	100 %	
	つづりひも	100 %	1000 個	1000 個	100 %	
	事務用封筒(紙製)	100 %	3000 枚	3000 枚	100 %	
	ノート	100 %	1005 冊	1005 冊	100 %	
	タックラベル	100 %	2897 個	2897 個	100 %	
	付箋紙	100 %	4864 個	4864 個	100 %	
	オフィス家具 等	机	100 %	6 台	6 台	100 %
棚		100 %	178 連	178 連	100 %	
OA機器	コピー 機等	リース・レンタル (新規)	100 %	0 台	0 台	100 %
		リース・レンタル (継続)	/	1 台	1 台	/
	電子計 算機	購入	100 %	31 台	31 台	100 %
		リース・レンタル (新規)	100 %	7 台	7 台	100 %
	記録用メディア	100 %	237 個	237 個	100 %	
	一次電池又は小型充電 式電池	100 %	554 個	554 個	100 %	
自動車等	一般公 用車 (ハイブ リッド自 動車)	購入	100 %	0 台	0 台	100 %
		リース・レンタル (新規)	100 %	1 台	1 台	100 %
		リース・レンタル (継続)	/	1 台	1 台	/
制服・作業服	作業服	100 %	76 着	76 着	100 %	
防災備蓄用品	ペットボトル飲料水	100 %	1650 本	1650 本	100 %	
役務	印刷	100 %	114 件	114 件	100 %	
	輸配送	100 %	175 件	175 件	100 %	

6、環境負荷低減への取り組み

執務室におけるエネルギー使用量の抑制

NEDOでは機構内におけるエネルギー使用量の抑制を図るため、下記の事項を実施しています。

なお、東日本大震災後の発生後は、電力需給状況に配慮し、節電の取り組みを一層強化しました。

- ・昼休み時間の消灯、執務時間中の間引き消灯
- ・未使用時のOA機器の電源OFFの励行
- ・一斉退社日の励行(構内放送による呼びかけと見回り)

また、「温室効果ガス排出抑制等のための実施計画」(P13参照)において掲げているエネルギー消費効率の高い機器の導入についても取組み、本部及び九州支部の執務室内の照明機器はLEDランプに切り替え済みです(2008年度から順次切り替えを実施)。照明

は、執務室内の電気機器の中でもとりわけ使用時間の長いものであるため、エネルギー消費効率の向上が全体の電気使用量の削減に大きく貢献しています。

なお、2011年度は更なる節電対策として、西日が当たる区画にロールスクリーンを導入し、室温対策の取り組みを行いました。



照明(LED)の間引き消灯を実施

クラウド・コンピューティングの導入による省エネ効果

NEDOでは、「NEDO PC-LAN システムの業務・システム最適化計画(2008年3月31日)」に基づき、システム運用・保守業務の合理化やセキュリティの向上を図るべく、2010年度にクラウド・コンピューティングを導入しました。

従来、機構内に専用のサーバー室を設置し運用していましたが、データセンターによるサーバーの運用に変更し、空調等も含め、消費電力の大きいサーバー室を廃止しました。

消費電力の少ないシンクライアント端末併せて各職員の席のデスクトップ端末(約1,000台)をシンクライアント端末に置き換えました。従前のデスクトップ端末と比較して、通常使用時における消費電力は

およそ1/5程度となり、サーバー室の廃止による電力量の削減とあわせ、大幅な省エネとなっています。

また、消費電力が小さいことにより、端末からの発熱量が大幅に削減され、執務室の冷房効率の向上にも貢献するという副次的な効果も生じています。

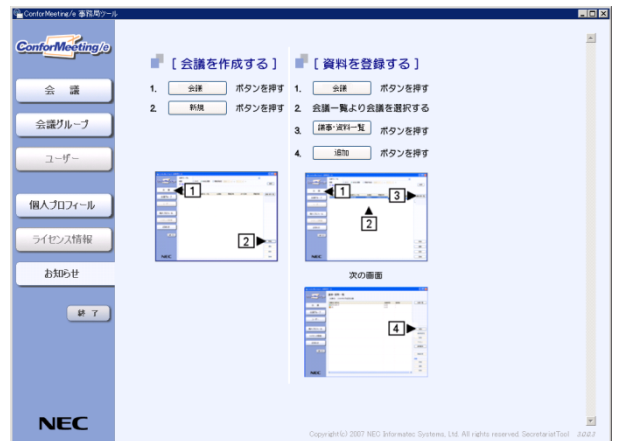


消費電力の少ないシンクライアント端末

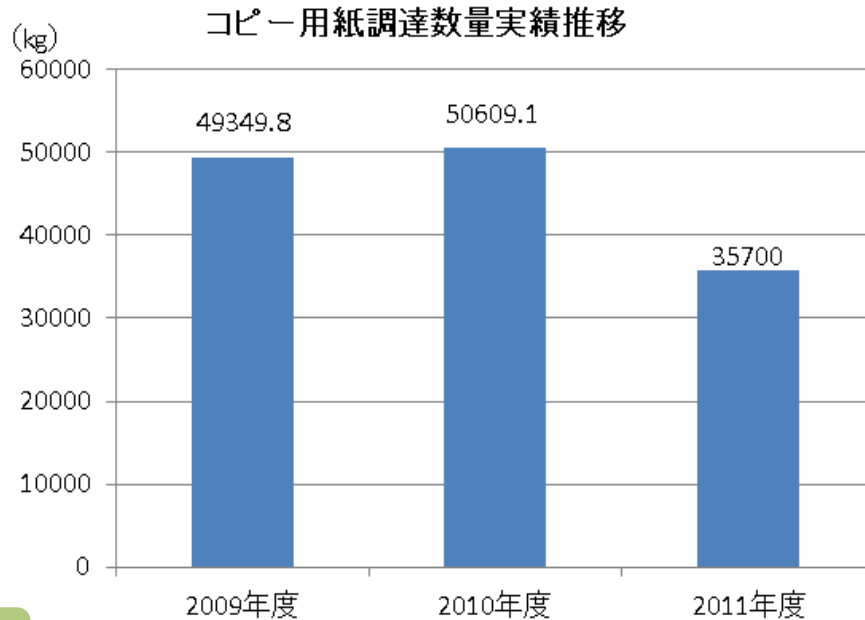
紙の使用量削減

紙の使用量削減を目指して下記の事項を実施しています。また、今後も以下取組を通して、紙の使用量削減に努めます。

- ・両面印刷、両面コピー、複数ページ印刷の励行
- ・使用済み用紙を再利用
- ・会議資料等、作成資料の簡素化の徹底
- ・印刷物発注等の際の原稿のPDF化
- ・ペーパーレス会議システムを導入し、併せて回覧等は可能な限りメール、イントラネットで周知し、ペーパーレス化を推進しています。



ペーパーレス会議システムアプリケーション



省資源トピックス

複合機の仕様変更による無駄の削減

機構内のネットワーク全体を一体的に合理化したことに伴って、複合機(プリンタ、FAX、スキャナ、コピー機能)の仕様もサーバー認証後に出力可能とする新たな仕様となっています。

現在書類をプリントアウトする際には、自席クライアント端末からデータを送信後、複合機に別途ログインし、ジョブを指定して行う仕組みとなったため、誤ってデータを送信してしまったものについて、紙に印刷する前に削除することができ、この結果、誤ったプリントアウトによる紙の無駄を削減することが可能となりました。



ログイン後、ジョブを確認してから必要なもののみを印刷する

ゴミ分別の徹底

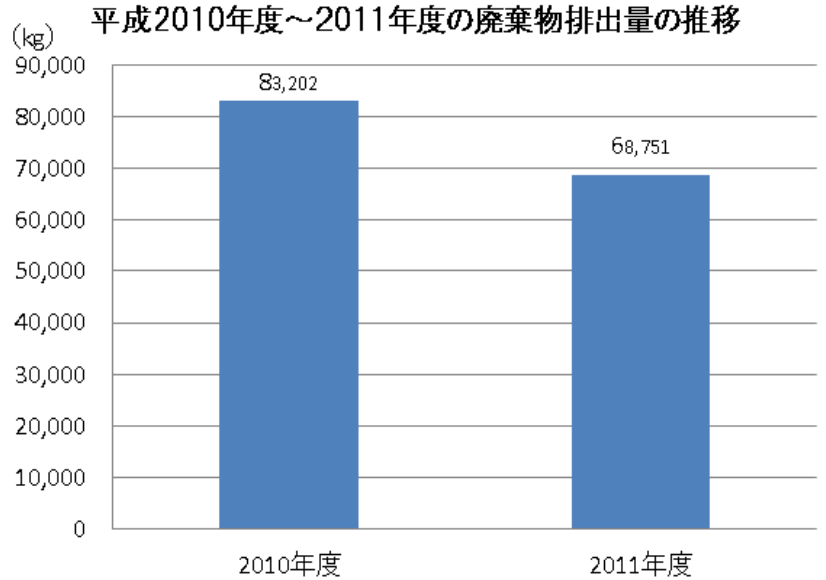
各階のリフレッシュコーナーに、分別回収容器類(可燃物、不燃物、缶、ビン、ペットボトル)を設置し、資産管理部による見回りを実施しています。

また、使用済みテプラカートリッジなどリサイクル可能な

ものを回収し、リサイクルに向けて、製品の長期使用を推進しています。



リフレッシュコーナーに設置しているゴミ分別容器類



事務消耗品等の内部利活用

NEDOでは、グリーン調達に積極的に取り組む一方、業務において一度使用された物品等(中古)についても可能な限り内部での再利用を推進させることでムダを無くし、資源の有効活用と共にゴミ排出量の削減に努めています。



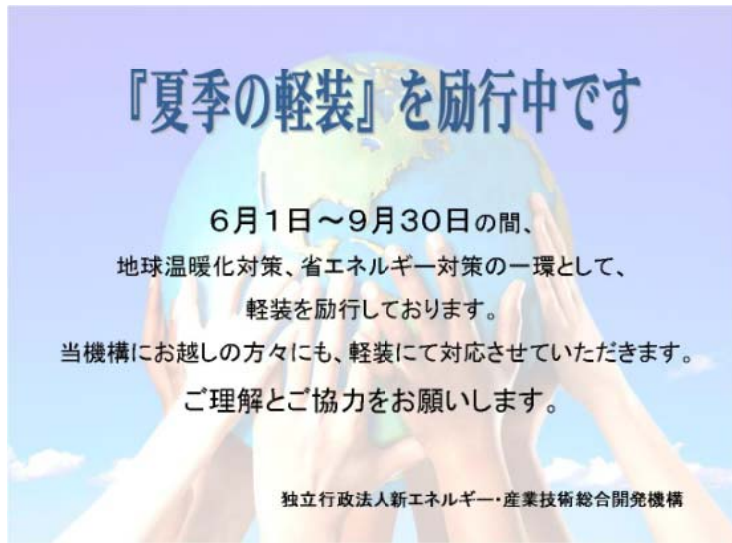
物品庫
(使用済み物品等についても種別毎に仕分けし保管しています)

クールビズ、ウォームビズの推進

地球温暖化対策及び省エネルギー対策の一環として、NEDO全体でクールビズ、ウォームビズを励行しています。夏季はノーネクタイ、ノー上着等の軽装、冬季は開口部を暖める等衣服を工夫するよう呼びかけています。全職員宛てのメール送付や、執務室へのポスター掲示、イントラネットや社内報による周

知を行いました。

また、NEDOの役職員のみならず、来構者の方々へもご案内し、協力を呼びかけました。



クールビズ周知ポスター

2 NEDOの節電対策 2011夏

今年の夏は、今更には過ぎ去りました。サマータイムのため夫が朝早く出勤するので眠不足だったり、輪番作業の夏運とはお休みが合わなかったり...政府、電力会社等の呼びかけに応えて多くの法人、家庭が節電対策に取り組んでいます。ここでは、NEDOの節電対策と各部の取組を紹介します。さらに、一部において、単なる省エネの対策だけでなく、よりクリエイティブで生産的なエコを提案するエコイノベーション「エネラボ」を創出し、未来のエコオフィスのイメージを身体・体験してきましたので、併せてご紹介いたします。

節電対策

7月1日よりNEDO内でも様々な夏季節電対策が行われていますが、その効果は我々の目にはなかなか見えません。そこで、総務企画部総務課より、夏季の節電対策及び節電効果について教えていただきました。

昨年度、NEDOで夏季に行っていた取り組みはクールビズのみでしたが、今年度は震災に伴う電力供給不足の影響もあり、左表のとおり様々な項目について、NEDO全体として節電対策に取り組んでいます。NEDOは、工場や研究所を所有しているわけではないので、例えばメーカーの工場の場合と違って大規模な節電対策は取ることができません。しかし、右表にあるとおり小さなことから、コツコツと節電対策を行うことで大きな節電効果を得ることは可能です。現状に、今年の節電対策によってNEDO全体で15%の節電効果が望まれています。

下記に、節電の効果が大きい3つの項目をピックアップしました。

今年度実施している節電対策(7月以前の取り組みも含む)

カテゴリ	項目	
ビル環境面	照明	執務室のLED照明 部室のLED照明へ入れ替え 昼休み時は、全消灯 会議室不仕様の消灯装置 LED照明の消灯(大型TV含む)
	空調	執務室の空調 会議室の空調 会議室の空調 会議室の空調 会議室の空調
	自動機	サーバー・プリンター・複写機等の電源をオフ プリンターの電源をオフ 複写機の電源をオフ
	PC	サーバー・プリンター・複写機等の電源をオフ プリンターの電源をオフ 複写機の電源をオフ
業務環境	各部署で設置している電化製品	コピー機・ファクシマ・複写機等の電源をオフ 冷蔵庫の電源をオフ プリンターの電源をオフ
	会議室への照明(主にLED照明)	長時間照明を点灯しない。LED照明をオフにする
労働環境	空調設備	空調設備の電源をオフ 空調設備の電源をオフ
	休憩室	休憩室の電源をオフ 休憩室の電源をオフ

照明

NEDOの照明は、蛍光灯からLED照明へ取り替えを行ったことで大幅な省エネを実現しました。更に、震災後の3割減灯に加え、夏季節電期間は照明器具が省エネで切り替わっています。照明は執務室環境への影響が大きいので、そこで働く職員にとっては気になる点ですが、この節電効果は非常に大きいのです。なぜなら、NEDOの電費使用量は照明に占める割合は、LED照明へ取り替えた後で従来のおよそ18%と下がっているからです。多少執務室の薄暗さが気になります。その節電の効果を考えての覚悟は大きいです。

冷蔵庫・ポット

一般的に冷蔵庫や電気ポットの消費電力は大きいとされていますが、NEDOにおいてもこれらが、全体に占める消費電力の割合は高いです。今年度の夏季の節電対策でも、各部署では冷蔵庫や電気ポットの使用を制限しています。それぞれの定消費電力は、冷蔵庫は200W、電気ポットが750Wです。今年度の節電では、NEDO全体で冷蔵庫は25%、電気ポットについては45%の使用削減が行われています。(台数ベース)

PC端末

昨年度秋にNEDOのPCがシンククライアント構築に入れ替えられたことは、NEDOの職員の間には新しいことですが、このシンククライアント構築は、情報セキュリティの面で使われているのは最初の事ですが、実は省エネ性の面からも非常に優秀です。以前のPCは通常一台あたり200Wの消費電力でしたが、なんとシンククライアント構築の一台あたりの電力消費は9W、およそ90%の削減効果があります。

夏季の節電対策の周知
(社内報)

冬季の節電対策の周知
(イントラネット)

12月～3月
冬季節電対策期間です

上記期間、以下の項目について皆様の積極的なご協力をお願いします。

【1/13(金) 総務企画部 北側総務課 朝20℃です】

- (1) 暖房中の室温19℃の徹底
 - ・日が落ちたら窓からの放熱を防ぐため、ブラインドを閉めて下さい。(夜間～朝までは、窓際の結露防止用送風機能・ペリメータファンが稼働します。)
 - ・室温計で18℃以下である、又は局所的に風が当たって寒いなどの状況がありましたらお知らせ下さい。
 - ・ウォームビズ推奨中！重ね着、脱掛け等ご活用下さい。【[掲示用ポスターはこちら](#)】
- (2) 電化製品の省エネルギー化
 - ・水屋のポット等電化製品、複合機等の可能な範囲での集約をお願いします。
- (3) 照明の引き切り消灯
 - ・冬は夏より照度が落ちがちですので、状況に応じた引き切り消灯をお願いします。
- (4) エネルギー使用量の把握と職員の意識向上
 - ・本ページに電気使用量の実績や節電に係る参考情報をアップしていきます。
- (5) 自動販売機等の運用調節
 - ・各階の自動販売機の会社によって対応が異なりますが、対応出来る機種については冷却の停止を実施します。お気づきの点は総務課までご連絡下さい。



プロジェクトを通じた地球環境への貢献

NEDOでは、エネルギー・環境問題の解決に貢献し得るさまざまな技術開発を手掛けています。この章では、2011年度に成果を挙げた事業についてご紹介します。

7、プロジェクトを通じた地球環境への貢献

世界最高峰の太陽電池開発へ

太陽光発電の更なる普及に向けて

地球温暖化に対する世界的な関心の高まり、また将来的なエネルギーセキュリティの観点から、太陽光発電は最も身近な再生可能エネルギーとして注目されています。NEDOでは1980年の設立以来、太陽光発電の技術開発を続けてきました。現在、国内では住宅用太陽光発電システムの累計導入量が100万件以上まで増加しており、全国各地でメガソーラーと呼ばれる大規模太陽光発電施設の建設が進んでいます。太陽光発電を更に普及させるためには、変換効率(※)等の性能を飛躍的に向上させるとともに、太

陽電池の低コスト化を進めることが重要であり、NEDOはその実現に向けた取組を行っています。

※変換効率：太陽からの光エネルギーを電気エネルギーに変換する割合



群馬県太田市 Pal Town

(2002年より、集中連系太陽光発電システム実証研究等を実施)

化合物3接合型太陽電池で、世界最高の変換効率を達成

現在、導入されている太陽電池の約80%を占めるシリコン結晶の太陽電池は、市販製品で最高20%程度の変換効率を有しています。太陽光発電を更に普及させるためには、狭い面積でも十分な発電量が得られるように、変換効率を向上させていく事が重要なポイントとなります。

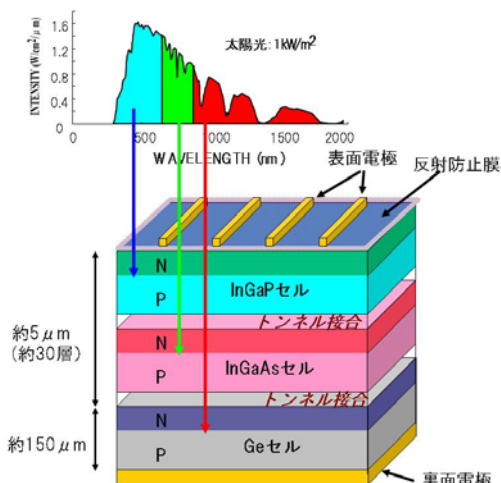
化合物3接合型太陽電池は、化合物からなる3つの異なる太陽電池を3層に重ねた太陽電池です。

NEDOの「革新的太陽光発電技術研究開発」プロジェ

クトでは、世界最高の集光時セル変換効率43.5%を、化合物3接合型太陽電池で達成しました。

本プロジェクトは、新材料・新規構造等を利用して、2030年以降に「発電コスト7円/kWh」を実現するため、太陽光発電の「モジュール変換効率40%超」を達成するための太陽電池の開発を目指すものです。

本成果によって、本プロジェクトの目標達成時期が前倒しされ、超高効率太陽電池の早期実用化が期待されます。



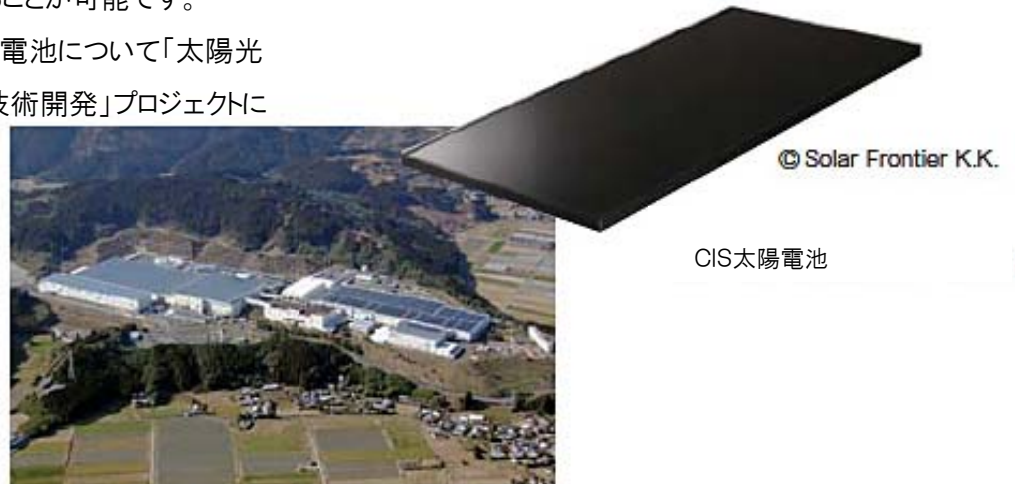
世界最高効率を達成したシャープ(株)の化合物3接合型太陽電池

CIS系太陽電池でも世界最高変換効率を達成

CIS系太陽電池は、シリコンの代わりに銅(Cu)・インジウム(In)・ガリウム(Ga)・セレン(Se)などの化合物を用いた太陽電池です。光を反射せずに太陽電池に吸収する特徴があり、省資源で製造できるメリットがあります。また、量産も容易なため、シリコン系の太陽電池よりも製造コストを低く抑えることが可能です。

NEDOでは、このCIS系太陽電池について「太陽光発電システム次世代高性能技術開発」プロジェクトに

おいて技術開発に取り組んでおり、2012年2月に、CIS系太陽電池として世界最高変換効率17.8%を達成しました。さらに、CIS系太陽電池として世界最大級の太陽電池工場が竣工されており、CIS系太陽電池の普及が更に広まるものと期待されます。



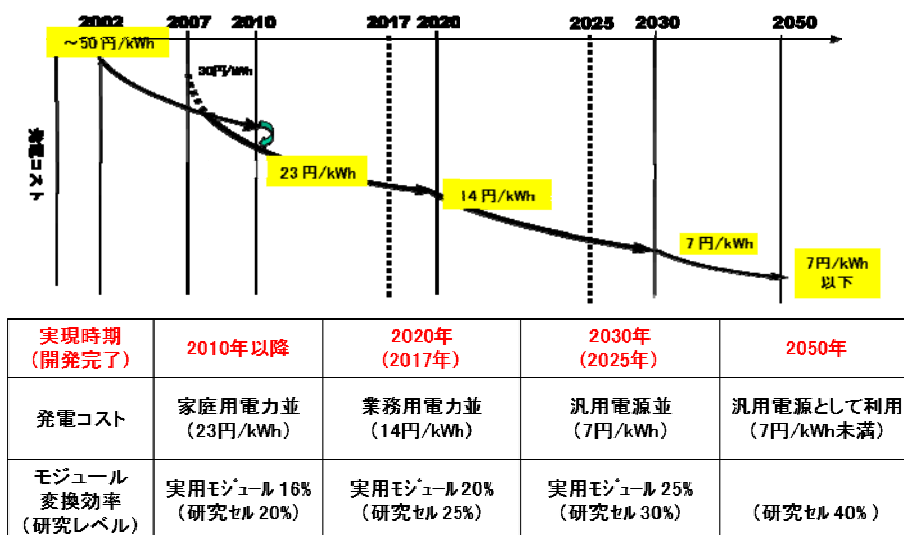
世界最大規模の年産900MW太陽電池工場(昭和シェル石油(株))

今後の展開

国内では、2012年7月に再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度が開始されたこともあり、再生可能エネルギーへの注目度が高まっています。今後、より一層再生可能エネルギーの導入量が増加することが期待されます。

海外でも、地球温暖化問題や原油価格の高騰を受け、再生可能エネルギーへの需要が年々増加傾向

にあります。これらの期待に応えるべく、NEDOは世界最高レベルの太陽電池の技術開発を世界に先駆けて進めていきます。併せて、国内企業の世界市場での競争力を確保するため、2050年以降に発電コスト7円/kWh以下を実現するための低コスト化も目指していきます。



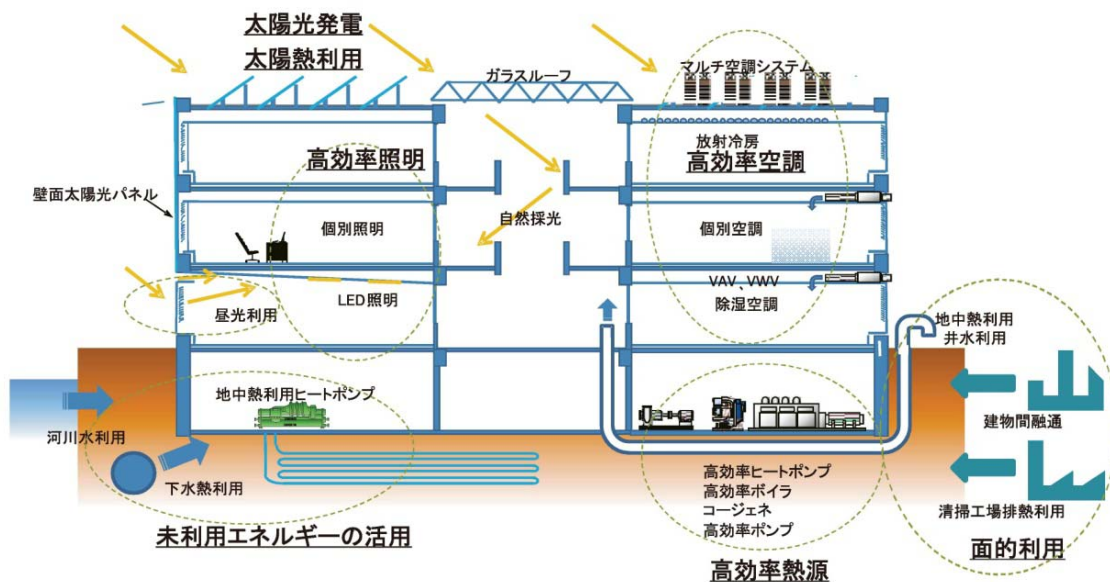
出典:太陽光発電ロードマップ(PV2030+)

オフィスビルでのエネルギー消費量をゼロに

「ZEB(ネット・ゼロ・エネルギービル)」とは

東日本大震災後の影響等を踏まえ、日本のエネルギー政策の見直しが検討されていますが、「省エネルギーの推進」は引き続き重要な課題です。特に、日本では、オフィスビル等を中心とする業務部門のエネルギー消費が増加したまま高止まり傾向にあります。そこで、オフィスビル等におけるエネルギー消費量の

削減を進めるため、①建築構造や設備の省エネルギー、②未利用エネルギーの活用、③地域内でのエネルギーの面的利用といった対策をうまく組み合わせることで、化石燃料などから得られるエネルギーの消費量を概ねゼロとする「ZEB」の積極的な普及が望まれています。



ZEBのイメージ

【具体的な対策技術】

- ① 建築構造や設備の省エネルギー
自然光・風を取り入れやすい構造の採用や日射・気温など外部環境の変化に対応して制御する設備、高効率な照明や空調機器の導入
- ② 未利用エネルギーの活用
太陽光発電、太陽熱、河川熱、地中熱等の再生可能エネルギーの活用
- ③ 地域内でのエネルギーの面的利用
工場、ゴミ焼却場等の廃熱、余剰電力利用

「ZEB」の進展・拡大に向けたNEDOの取り組み

「ZEB」を進めていく上では、各対策をいかにうまく組み合わせ、最適に制御していくのがポイントになります。NEDOでは、2009年度より、省エネ設備・技術や未利用エネルギーを組み合わせることで、エネルギー

消費量の削減を図り、CO₂排出量を従前に比べ30%以上削減する実証事業「次世代省エネルギー等建築システム実証事業」を実施し、「ZEB」の実現に向けてチャレンジしています。

年間一次エネルギー消費量とCO₂排出量を30%以上削減

実証事業は、省エネルギー、省CO₂を実現する最新設備やそれらを組み合わせた先進的な技術と併せて、エネルギーの効率運用を可能とする制御システムやエ

ネルギー管理システムを導入した8つの事業所(事務所ビル4件、大学施設2件、ホテル1件、ショッピングセンター1件)で実施しました。



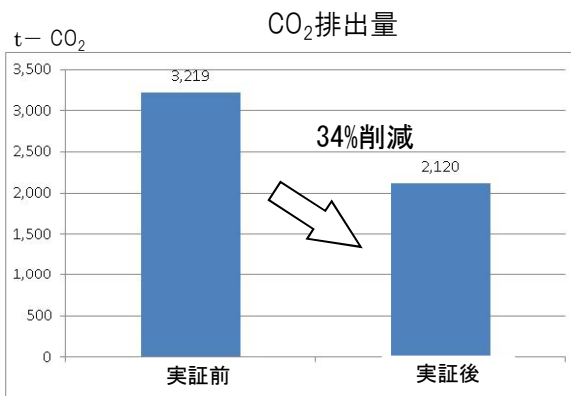
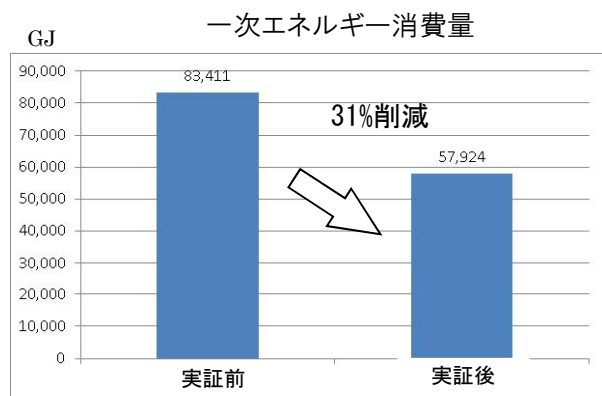
東京大学
「21KOMCEE(理想の教育棟)」



新日鉄エンジニアリング
「北九州技術センターE館」

2011年度のエネルギー使用実績(大学施設1件除く)では、年間一次エネルギー消費量の31%を削減し、二酸化炭素の年間排出量としては、34%の削減を図ることが出来ました。現在、各施設において、さらなる削

減を図るべく、エネルギーの使用実績の解析を行い、運転条件の変更や運用改善を継続的に実施しており、今後は2030年時点で一次エネルギー消費量、CO₂排出量ゼロを目指すための方策を検討していく予定です。



「ZEB」の実現に向けた今後の取り組みについて

また、NEDOでは、高い省エネ効果が見込まれる技術開発の支援を行う「戦略的省エネルギー技術革新プログラム」において、ZEBを重要技術として位置づけ、建築物の躯体・設備の省エネ性能の向上や普及を促進するため、製品の低コスト化といった特定課題を設定

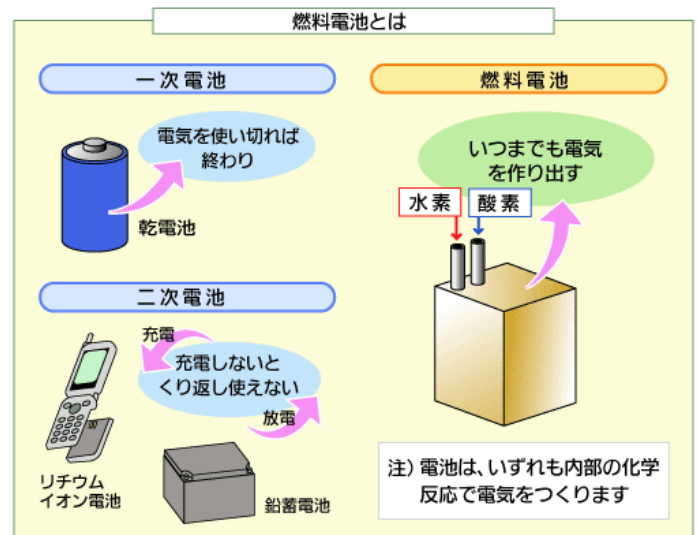
し、広く提案を募っています。これらの取り組みにより、建築物のエネルギー消費量の低減を可能とする空調、給湯、照明等の開発を推進し、省エネルギー、省CO₂を図ることが出来る経済的なシステムの実現を目指していきます。

分散型電源として期待される定置用燃料電池

小型分散電源の必要性

日本国内での電力系統は、世界的にも電圧や周波数の変動が小さいため、停電の時間や回数が少なく、世界最高水準の品質です。この電力インフラを更に強固にするためには、災害時等で発電所からの電力供給が期待できない場合に、系統と独立して、地域に安定的にエネルギーを供給できる分散型電源の導入が必要となります。その分散型電源の一つとして期待されるのが燃料電池です。

燃料電池は、水素と酸素を利用して発電するシステムです。水素と酸素が化学反応する際に発生する電気を利用するものですが、それだけでなく同時に発生する熱水についても利用できるため、エネルギー効率が高いという特徴があります。また、二酸化炭素の排出量が従来に比べて約半分となることから、環境にもやさしいシステムとして期待されています。



燃料電池の種類

	固体高分子形 (PEFC)	りん酸形 (PAFC)	熔融炭酸塩形 (MCFC)	固体酸化物形 (SOFC)
電解質	固体高分子膜	りん酸水溶液	炭酸塩	ジルコニアなど
原燃料	天然ガス、LPG、灯油など			
運転温度	70~90℃	200℃	650~700℃	700~1000℃
発電効率 (HHV)	30~40%	35~42%	40~60%	40~65%
発電規模	数W~	20kW~	数百kW~	1kW~

固体高分子形燃料電池を用いた家庭用燃料電池・エネファームの商用化

NEDOでは、燃料電池を分散型電源として普及させるための技術開発を行ってきました。PEFCの実用化に必要な低コスト化・信頼性向上等のための技術開発を行い、その結果、固体高分子形燃料電池 (PEFC) について、家庭用燃料電池を用いたコージェネレーションシステム「エネファーム」として、2009年5月、世界に先駆けて商用化を実現しました。販売を開始して以来、日本全国で導入されています。



● 固体酸化物形燃料電池でもエネファームを商用化

PEFC型と同様に、NEDOでは固体酸化物形燃料電池(SOFC)についても技術開発を進めてきました。SOFC型はPEFC型に比べ、発電効率が高いという特徴があります。それだけでなく、天然ガスや石炭ガスなどの多様な燃料にも対応が可能で、小型分散型から大規模火力代替システムまで広い適応性を持っています。

このSOFC型について、耐久性や信頼性向上のため

の技術開発を進めてきた結果、2011年10月に世界で初めてSOFC型エネファームの商用化を達成しました。SOFC型エネファームは、システムが簡素であるため、コンパクト化を実現し、戸建ての住宅だけでなく、マンションなどの集合住宅にも設置が可能となりました。



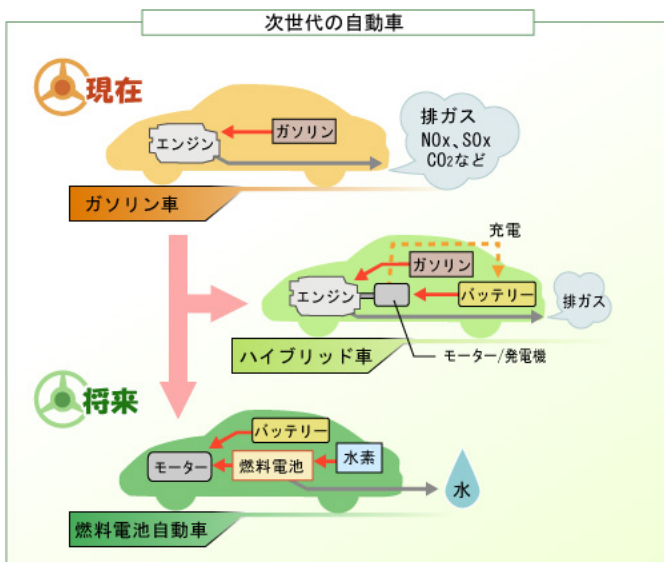
大阪ガス(株)、アイシン精機(株)
京セラ(株)、(株)長府製作所
トヨタ自動車(株)

JX日鉱日石エネルギー(株)

● 今後の展開

今後の燃料電池の展開としては、水素社会の実現を目指し、エネファームのような定置用の小型分散電源としてだけでなく、燃料電池自動車としての利用も期待されています。

現在、燃料電池自動車の分野では、2015年の商用化を目指し、燃料電池自動車と水素を供給する水素ステーションを設立し、実証研究を進めています。



商用化を目指す燃料電池自動車

トップレベルの水処理技術を海外で実証

世界の水問題について

水は人間にとって無くてはならないものですが、その量には限りがあります。しかし20世紀以降、私たちの生活レベルが上がるにつれて、世界の淡水使用量は格段に増加しています。それに従い、水質汚染が進み、私たちが「資源」として使えるきれいな水が失われつつあります。

一方、日本の水処理関連の企業は、海水淡水化に使われる膜などの分野に高い技術力を持っており、そのような問題の解決に貢献しています。

NEDOは、水処理の実証研究を海外で行うことで、日本の企業の持つ高度な水処理技術を取り入れた水道事業を海外展開できるよう支援しており、それに

よって世界の水問題の解決に尽力していきます。



最新の16インチRO膜(ウォータープラザ北九州)

シンガポールで、新たな産業廃水のフッ素処理を実証

シンガポールは水資源が乏しいため、限られた水資源をリサイクルし、有効利用することが求められています。工業廃水も例外ではなく、使用量も多いため、省エネルギーで水をリサイクルすることが大切です。

NEDOは、シンガポールの電子産業の廃水に含まれるフッ素を処理し、工業用水として再利用する実証事業を行いました。薬品には塩化カルシウムを使用し、使用後のカルシウムをリサイクルするプロセスを組み込んだ新たなフッ素除去システム(凝集膜分離法)の実証を、1日の処理量が20m³の規模のプラントで行いました。それによって、従来法に比べ、①省エネルギー30%、②カルシウム添加量40%減、③汚泥30%減を達成し、新しいプロセスの優位性を検証しました。

今後NEDOは、電子産業の海外進出によりフッ素廃

水処理ニーズの高まるインド、東南アジア諸国においても日本企業がこの技術を展開できるよう支援し、フッ素廃水の浄化による環境負荷低減とフッ素処理の省エネルギー化に貢献していきます。



フッ素除去実証プラント(シンガポール)

中国で、オゾンを活用して水質改善と浄化能力の回復を同時に実現

中国雲南省の滇池(テン池)では、富栄養化によってアオコが大量発生しており、その処理が求められています。

NEDOは、アオコが発生する原因である水中の窒素、りん等を除くことによって湖の水をきれいにし、同時に湖が自ら浄化する能力を回復させるため、効率的なオゾン処理システムであるNAC(Natural Alive Cycle)システム※を導入した実証研究を行いました。

実証研究の結果、従来のオゾン処理法と同等の能力(CODCr、T-P(全りん)の除去率はそれぞれ70%、90%以上を達成)を発揮しながらも、30%の省エネルギー化

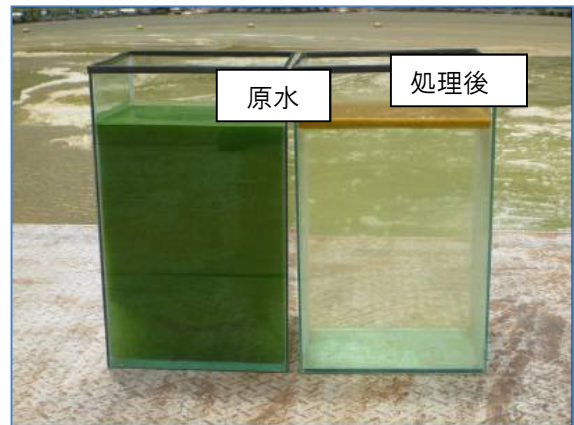
を実証することができました。

この技術は工業廃水の処理にも応用できます。中国は工業の発展が著しく、それに伴って水処理に関する高い技術が求められています。NEDOは、中国の他地域でもこの技術の導入を支援することで、湖沼の浄化だけでなく、工業廃水の浄化と廃水処理の省エネルギー化にも貢献していきます。

※ NACシステムは、アオコをオゾンによって処理すると同時に、反応後のオゾンから生成された高濃度酸素水を湖沼へ供給することで、湖沼の自然浄化能力も回復させます。



NACシステム プラントの一部



原水と処理水の比較

水循環システムの海外展開に向けて

2007年の時点で約36兆円であった世界の水ビジネス市場は、2025年には87兆円になると言われています。日本は、膜処理技術や省エネルギー技術など日本企業が優位性を持つ要素技術を軸とした水循環システムを構築し、国内外で運営・管理実績を積み、世界市場を獲得していく必要があります。NEDOは、日本企業の海外展開を支援するため、「省水型・環境調和型水循環プロジェクト」を、国内外の他機関との連携を強化しながら進めています。

このプロジェクトでは要素技術開発の1つとして、省エネルギー型MBR(膜分離活性汚泥法)技術の開発を行っています。この技術は、システム全体のエネルギーを40%削減することが見込まれ、国内外への普及が期待されま

す。NEDOは、日本の省エネルギー型の水処理技術の普及を支援し、世界の水環境の改善と、エネルギー使用量の低減を目指していきます。



省エネ型MBRパイロット試験装置 (福崎浄化センターに設置)

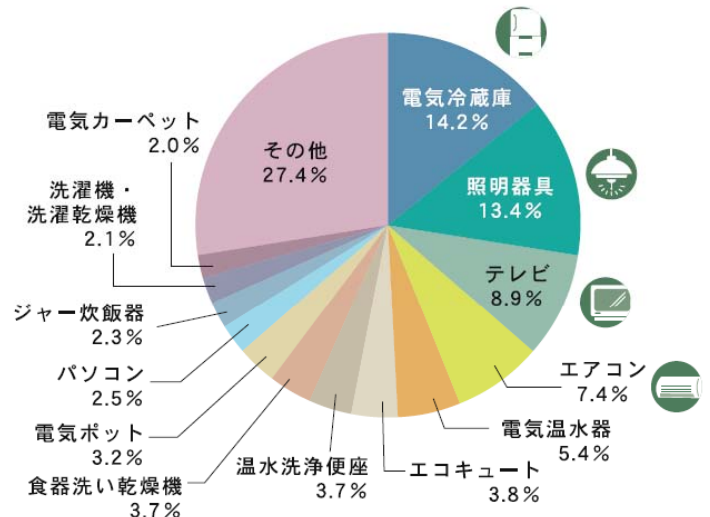
効率的なLEDと有機EL照明を開発、大幅な省エネに貢献

白熱電球や蛍光灯から、LEDや有機EL照明へ

日本では、家庭における消費電力の約13%を照明が占めており、冷蔵庫について2番目に多くなっています。白熱電球や蛍光灯などの従来光源の歴史は長く、照明の抜本的な省エネルギー化は困難とされてきましたが、エネルギー効率が高いLEDや有機EL照明といった次世代照明の登場により、照明分野の大幅な省エネルギー化が期待できます。

世の中で普及している熱電球や蛍光灯を、一般的な蛍光灯の2倍の発光効率(130lm/W※1)の次世代照明に全て置き換えることができれば、世界で排出されているCO₂を約10%削減することができます。

※1 lm/W:ルーメン/ワットとは、消費電力1Wあたりどのくらいの量の光(光束)が出るのかを表す効率の単位のこと。



出典:経済産業省 総合エネルギー調査会 省エネルギー基準部会(第17回)資料

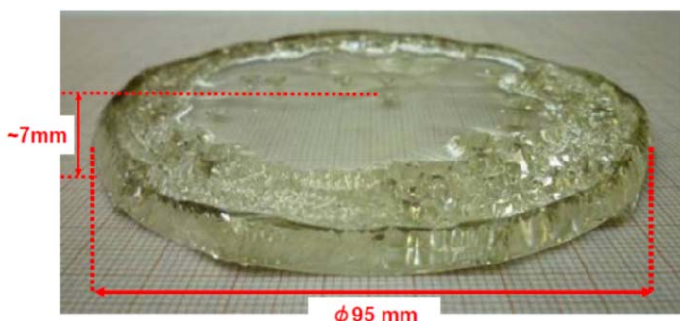
世界最高レベルの発光効率を誇るLEDや有機EL照明を実現

NEDOでは、照明のエネルギー消費量削減を目的として、化合物半導体や有機半導体などの新しい材料を活用した発光効率の高いLEDや有機ELの研究開発を行っています。

LEDについては、GaN(窒化ガリウム)結晶基板を使用することで、LEDの高効率化を目指しています。GaN基板を使用することにより、サファイア基板を使用する一般的なLEDでは到達できない領域まで高効率化が可能となります。これまでのところ、200lm/W以上という世界最高クラスのLEDを実現しました。

また、有機ELについては、有機発光材料の改良や光を取り出す方法の工夫などにより、60lm/Wを超える世界最高レベルの発光効率を達成しています。

こういった高効率化の取り組みに加えて、現在NEDOで取り組んでいる次世代のLEDや有機EL照明が社会に普及していくためには、コストの削減も重要な課題です。そのため、NEDOでは生産技術の高度化についても併せて取り組んでいます。



LEDの高効率化を支える4インチバルクGaN結晶
(協力:三菱化学(株)、東北大学)



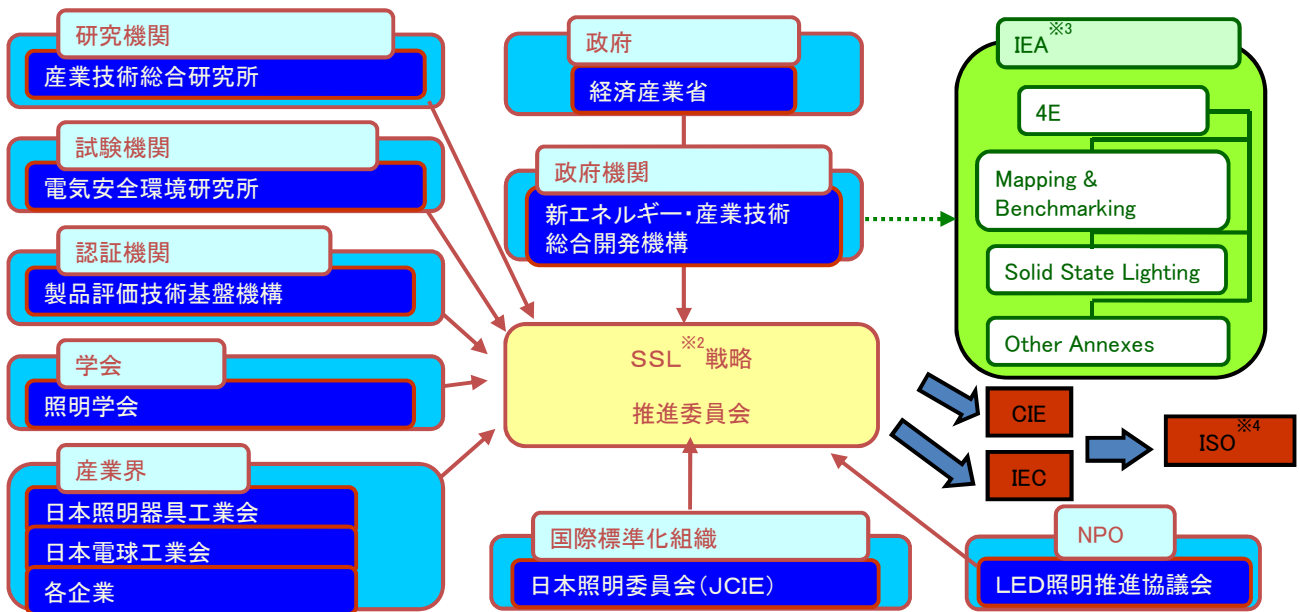
有機ELを用いた公共空間・施設照明の試作例
(デザイナー:前見文徳、製作協力:日本街路灯製造(株)、パナソニック電工(株)、パナソニック出光OLED照明(株)、Light Bridge Association JAPAN NPO)

次世代照明の普及に向けて ～標準化の取り組み～

照明の省エネルギー化を進める上で、LEDや有機EL照明そのものの高効率化を進めていくことは重要ですが、前提として優れた照明機器が適切に性能表示され、粗悪品が排除されるような市場環境を構築しなければ、照明による省エネルギー化は進みません。そのため、照明機器の性能が正しく評価されるための標準化の取り組みも非常に重要です。

NEDOでは、LEDや有機EL照明の国際標準化の活

動を研究開発の側面から支援しています。LED照明に関しては、光の強さ、色、寿命等、LED照明の性能を正しく試験評価するために必要な課題を設定し、これらを克服するための研究開発を行っています。有機EL照明に関しては、面で発光するというこれまでの光源にはない特徴を踏まえた評価方法の研究開発を行っています。これらの活動内容は国際照明委員会(CIE)等へ積極的に情報発信しており、標準化の議論に役立っています。



LED、有機EL照明ともに、オールジャパンの体制で標準化を推進

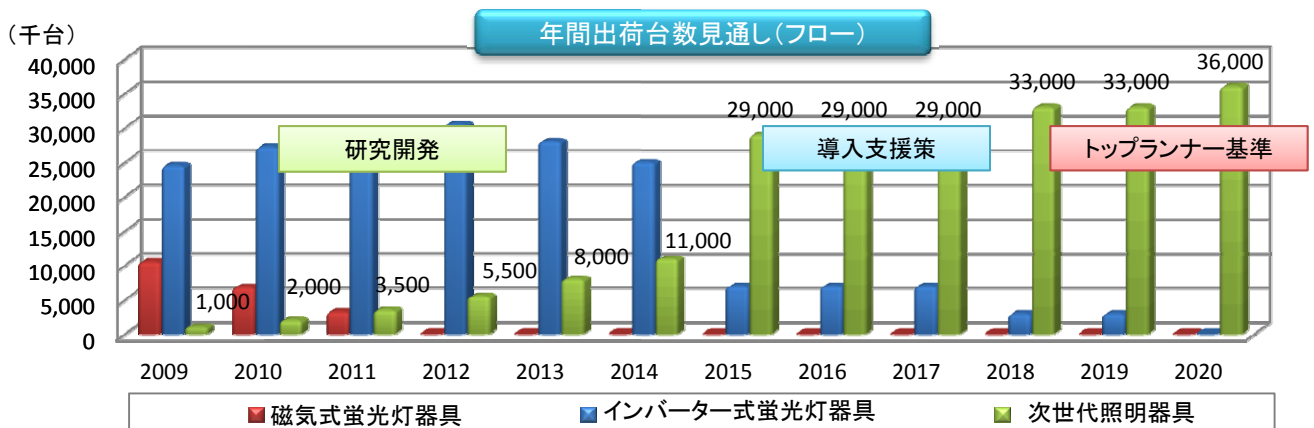
※2 SSL:LEDや有機EL照明といった固体照明の略(Solid State Lighting) ※3 国際標準化機構 ※4 国際エネルギー機関

高効率な照明の普及に向けた今後の取り組み

照明の省エネルギー化に向けた取り組みは、経済産業省との共通のロードマップに基づき、推進しています。現在は基盤的な研究開発を実施するフェーズですが、研究開発フェーズが終了した後は、エコポイントのような導入支援策やトップランナー基準※5の設定など、政策的なサポートも検討が行われています。このような取

組みにより、2020年までに、一般的な蛍光灯(下図の赤、青)の2倍の発光効率を誇る次世代照明(下図の緑)が、流通ベースで100%普及する社会を目指していきます。

※5 省エネ法に基づく機器のエネルギー消費効率基準。基準設定時に商品化されている製品のうち、「最も省エネ性能が優れている機器」の性能以上に設定される。



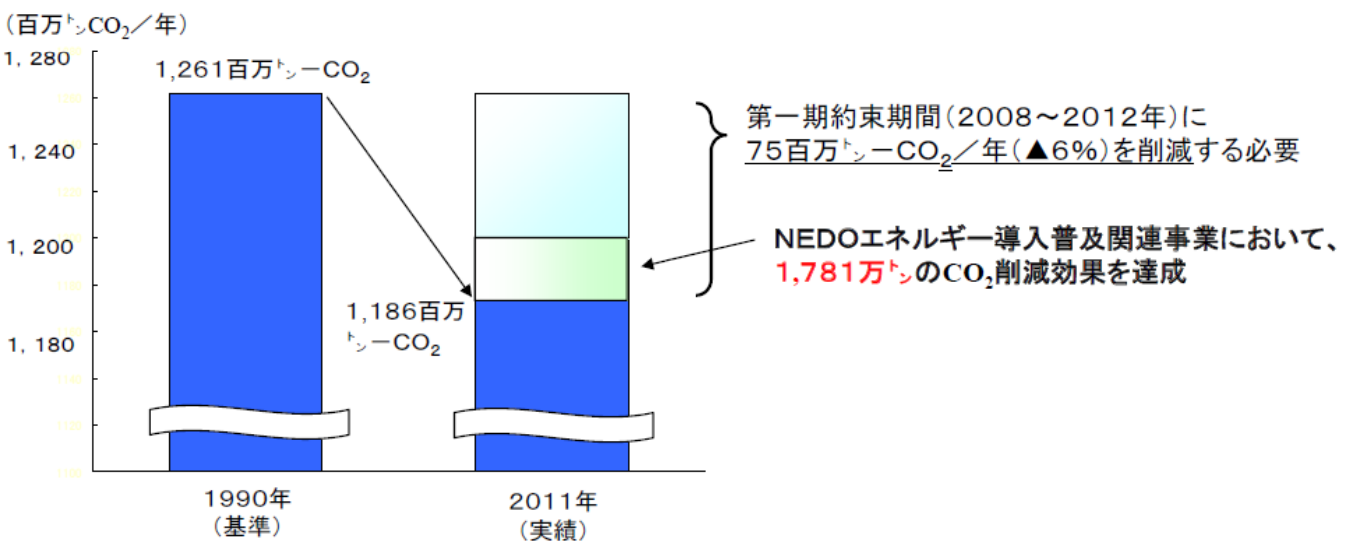
新エネルギー・省エネルギー導入普及事業を通じた 温室効果ガス排出削減効果

日本は、京都議定書において2012年までに温室効果ガス排出量を1990年比6%削減するという目標を掲げています。NEDOは、事業を通じてこの達成に貢献するため、温室効果ガス排出抑制に関する技術の実用化支援・導入普及事業等を推進しています。

例えば、「代替フロン等3ガスの排出抑制設備の開発・実用化支援事業」では、CO₂よりも温室効果が高い代替フロン等3ガス(ハイドロフルオロカーボン(HFC)、パーフルオロカーボン(PFC)類、六フッ化硫黄(SF₆))の排出を抑制・削減する技術に関して実用化を支援しました。また、それらの技術を備えた設備の導入を2006年度から実施しました。この代替フロンは、オゾン層保護の観点から生産が段階的に禁止されているフロンの代替物質として開発され、その使用量、排出量は増加が見込まれていますが、大気中に長期間に亘って安定に存在しかつ極めて強力な温室効果を発揮するため、排出削減が求められているものです。

また、「エネルギー使用合理化事業者支援事業」では、省エネルギー効果や費用対効果が高く、技術の普及性や先端性に優れた技術に対して導入を支援しました。例えば、エネルギーを相互に融通する複数連携省エネルギー事業や、エネルギーを多く消費するコンビナート地域等での大規模省エネルギー事業等を実施しました。

このような実用化支援・導入普及事業等を実施することにより、NEDOは2011年度までに、累積1,781万トンのCO₂削減効果をあげました。これは、日本の京都議定書における温室効果ガスの削減目標である-6%(-7,500万トン/年)の約24%に相当します。



<基準年の排出量に占めるNEDOの削減貢献量の割合>

※本内容に係る事業について、NEDOとしては2011年度をもって終了。

8、再生可能エネルギーの普及にむけた支援ツールとデータベース

NEDOでは、メガソーラ建設支援ツールや風力発電設備・導入実績等、再生可能エネルギーの普及に向けた各種支援ツールやデータベースをウェブサイト上

で公開しています。

※このページで紹介しているのは一部です。詳細はウェブサイトをご覧ください。

太陽光

■大規模太陽光発電システム導入手引書

「大規模電力供給用太陽光発電系統安定化等実証研究」を通じて得たメガソーラの設計から施工、運用に至るまでの様々な知見に基づき、メガソーラ事業参入を検討する企業等に対して、その指針となる手引書をまとめました。

■メガソーラ建設を支援する「検討支援ツール」

1、大規模太陽光発電システム導入のための検討支援ツール



おおよそのメガソーラ候補地、太陽電池パネルの種類、傾斜角、アレイの間隔等を選択することで発電所端の送電電力を予測します。

2、架台設計支援ツール

大規模太陽光発電所での地上設置型架台について、電気設備技術基準等に従った強度計算を行います。

 <http://www.nedo.go.jp/library/mega-solar.html>



■日射量データベース

日射量データベースとは、国内837地点において20年以上に渡って測定された日射量データを用途別にまとめて公開したもので、「年間月別日射量データベース(MONSOLA-11)」と「年間特別日射量データ

ベース(METPV-11)」の2種類があります。

また、日射量データを日本地図上にマップ化し、日射量の地理的分布を把握することができる「全国日射量マップ」を公開しています。

 <http://www.nedo.go.jp/library/nissharyou.html>



風力

■日本における風力発電設備・導入実績

国内の風力発電設備の導入・撤去に関して、年に一度導入実績調査を行っています。国内にある単機出力10kw以上の系統連系されているすべての風力発電設備を対象として、各電力会社からの聞き取り調査による情報を集計し、毎年3月末時点の導入実績を公開しています。



<http://www.nedo.go.jp/library/fuuryoku/index.html>

■風力発電予測プラットフォーム

気象予測に基づき、風力発電量を予測します。気象予報データ、windファームにおける風速と発電出力実測データを入力値として、発電出力の予測値と信頼区間値、実測値を閲覧できます。



<http://www1.weathereye.net/nedo-platform/index.html>

バイオマス

■バイオマス賦存量・利用可能量の推計 GISデータベース

各種バイオマスの資源量等に関するデータを、イン

ターネットを通じて試験的に提供しています。国内各地域における各種バイオマスの賦存量を数値として把握することができます。



<http://app1.infoc.nedo.go.jp/biomass/>

NEDO再生可能エネルギー技術白書

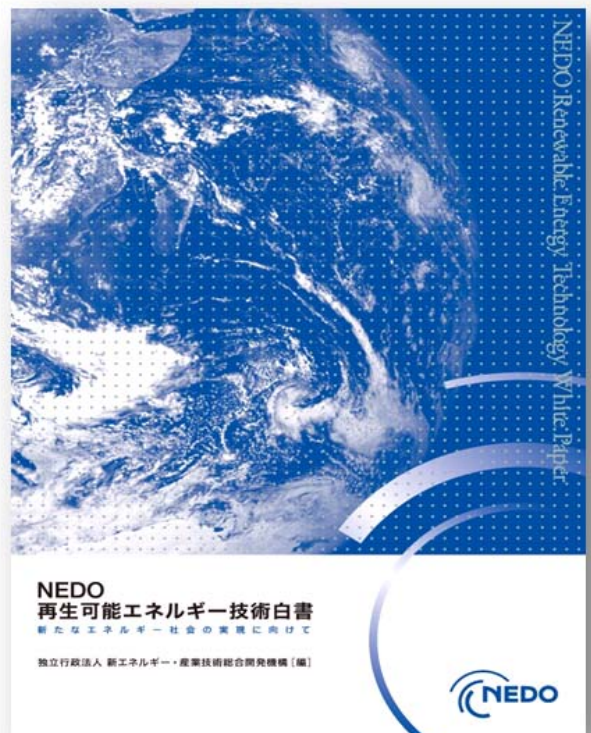
2010年7月、各種再生エネルギーやその導入拡大を支えるスマートグリッド等の以下分野について、国内外の最新技術動向を調査するとともに技術ロードマップを策定し、新たに「NEDO再生可能エネルギー技術白

書」として取りまとめました。

ウェブサイト上でPDFファイルによる無料公開及び書籍化を行い、再生可能エネルギーに係る情報を体系的に発信しています。

- ・太陽光発電
- ・風力発電
- ・バイオマスエネルギー
- ・太陽熱発電
- ・波力発電
- ・海洋温度差発電
- ・その他の再生可能エネルギー等※
- ・スマートグリッド
- ・スマートコミュニティ

※太陽熱冷暖房、中小水力発電、地熱発電、温泉熱発電・熱利用、雪氷熱利用、海流・潮流発電、潮汐力発電、熱電発電、圧電発電、工場等廃熱利用、温度差熱利用)



http://www.nedo.go.jp/library/ne_hakusyo_index.html



社会的取り組みの状況

NEDOでは、広報等活動を通じ、プロジェクトの成果を広く発信しています。また、環境教育の一環として工作コンクールやウェブコンテンツを作成しています。これら社会とのコミュニケーション活動の他、社会からの信頼に応えるべく取り組むNEDOのコンプライアンスや労働環境の整備に向けた取り組みをご報告します。

9、社会とのコミュニケーション

NEDOは、エネルギー・地球環境問題の解決と産業技術力の強化を目指す一方で、小中学生を中心とした日

本の将来を担う世代への新技術の普及啓発化活動を通じて、幅広い分野での社会貢献を展開しています。

環境教育活動

「被災地での太陽電池工作教室」開催

NEDOは、全国小学校理科研究協議会に協力いただき2011年8月より、東日本大震災の被災地の小学校において再生可能エネルギーについての説明や、ソーラーカーを一人一台ずつ作成する太陽電池工作教室を開催いたしました。

8月30日に開催した宮城県仙台市立南光台東小学校を皮切りに、東北地域の小学校など5校で計8回、のべ365名の生徒が参加しました。



太陽電池工作教室に参加した子供たち

第23回「新エネ・太陽電池工作コンクール」表彰式開催

1989年からNEDOが毎年開催している「新エネ・太陽電池工作コンクール」は、次世代を担う小中学生に、身近な工作を通じて新エネルギーに親しみ、その特性を理解していただき、エネルギーや環境問題への理解と関心を促すなど、エネルギー・環境教育に資することを目的に毎年開催しています。2011年度は全国から606作品の応募があり、その中から作品名「自動ひさし」など優秀作品を選定。上位作品は12月15日から3日間、東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2012」のNEDOブース内で展示し、最終日(11日)に会場内にある環境エコステージで上位入賞者を招き表彰式を行いました。

また、その後はNEDOが展示を行う科学技術館において受賞作品の展示も行い、子供たちの自由な発想で作られた作品は、来場者の注目を集めていました。



上位入賞者と審査員の皆さん

科学技術館で「未来を拓くテクノロジー」をテーマに展示

少年をはじめ一般市民を対象に日本の産業技術の普及・啓発を目的とした展示を行う科学技術館において、NEDOは「未来を拓くテクノロジー」と題し、「新エネルギー」「産業技術」に関する展示を行っています。23年度は約50万人が訪れるなど、多くの親子連れが来訪。燃料電池自動車のデモンストレーションなど、NEDOは展示や体験を通じ、子どもたちが楽しみながら科学技術を学ぶ場を提供しています。



燃料電池のデモンストレーション

様々な情報をウェブコンテンツで提供

エネルギー・地球環境問題を解決するための技術開発に関する事業の実施内容やその成果、また関連する各種情報をウェブサイトに掲載しています。概括すれば、事業の実施内容については「事業一覧」、成

果については「成果・実用化紹介」、関連する各種情報については「NEDOライブラリ」のコーナーにまとめています。

■動画で技術や導入事例を分かりやすく紹介「NEDO 広報ビデオ(動画配信サービス)」

PC http://www.nedo.go.jp/library/introducing_video_index.html

タイトル	内容	イメージ
「NEDOが変える未来の社会」	太陽光発電、風力発電といった新エネルギーなどで実現する未来のスマートコミュニティの姿を紹介【スマートグリッド、太陽電池、風力発電、次世代自動車、ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)、水循環システム、高効率石炭火力発電】	
「New Energy in Hokkaido 自然エネルギーと共存する大地 北海道」	新エネルギーと自然の共存をテーマに美しい風景とともに導入事例を紹介	
「新エネルギー普及啓発ビデオ(新エネルギーとともに)」	新エネルギーの普及啓発【風力、太陽、バイオマス、雪氷】	
「バイオマスエネルギー(廃棄物から取り出すバイオマス)、(身近な資源がよみがえる)」	バイオマス・エネルギーの導入事例と仕組みを紹介	

■新エネルギーを遊びながら学ぶコンテンツ「おしえて！新エネルギー」

新エネルギーに関する教材として、広く利用されています。太陽光発電、風力発電、バイオマス、燃料電池の4つのコーナーでキャラクター達(パウル君ほか)が楽しくレクチャーしてくれます。低年齢向けのコンテ

ンツではありますが、解説やゲームは大人でも十分楽しめる内容となっています。

PC <http://www.nedo.go.jp/kids/index.html>



■実証プロジェクトの様子をリアルに伝える ～プロジェクト現場レポート～

NEDOは、国内で初めての沖合における洋上風力発電の実現に向けて、洋上の風向と風速を観測する洋上風況観測タワーと実際に洋上で発電を行う洋上風車を実海域に設置するプロジェクトを推進しています。

プロジェクトの進捗状況について、ウェブサイトを活用し、「現場レポート」として逐次情報発信する特設サイト「国内初！沖合における洋上風力発電への挑戦」を立ち上げました。リアルタイムでプロジェクトの状況をお伝えすることで、NEDO事業を通じ、エネルギー・環境問題への理解促進に取り組んでいます。

特設サイト(トップページ)

 <http://www.nedo.go.jp/fuusha/>



NEDOは、国内で初めての沖合における洋上風力発電の実現に向けて、洋上の風向と風速を観測する洋上風況観測タワーと実際に洋上で発電を行う洋上風車を実海域に設置するプロジェクトを推進しています。

真珠の口は、千葉県銚子沖及び福岡県北九州市沖の沖合で2019年度中を目途に洋上風況観測タワーと洋上風車を設置し、風況観測や風力発電を行う実証研究を行います。これにより、我が国で海上風力発電を実現するに必要となる風量の確認・運用・保守に関する技術の習得や関係者間の連携が期待されます。

全実証研究サイト

地図上で確認したい千葉県銚子沖、福岡県北九州市沖の部分をクリックすると、各サイトの詳細が表示されます。



© New Energy and Industrial Technology Development Organization. All rights reserved.

国内における活動

地域に根差した活動

NEDOは11月3日、川崎市の企業、団体において進められている、省エネルギー・創エネルギーに関する製品や取り組みを市民の皆様に関わりやすく伝えるために開催された川崎市経済労働局主催の「かわさき環境ショーウィンドウフェア」に出展しました。また、川崎市の地球温暖化対策戦略である「カーボン・チャレ

ンジ川崎エコ戦略」を推進する川崎温暖化対策推進会議、川崎の産業観光を推進するための川崎産業観光振興協議会会議、川崎から国内外に向けて環境技術に関する情報発信を行う川崎国際環境技術展などの企画運営への協力など、今年度も積極的に地元に関わった活動を行いました。



かわさき環境ショーウィンドウフェア

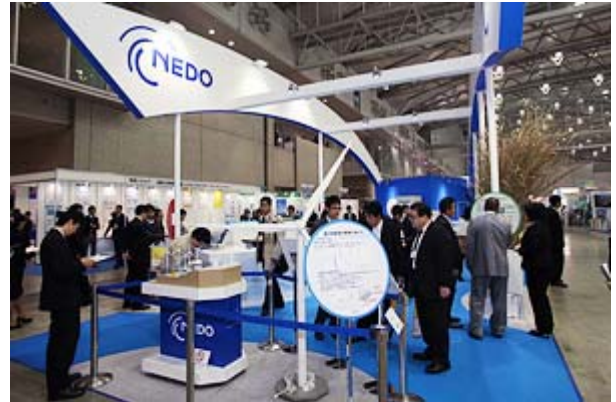
「第6回再生可能エネルギー世界展示会(RE2011)」に出展

NEDOは12月5日から7日までの3日間、幕張メッセで開催された「第6回再生可能エネルギー世界展示会(RE2011)」に出展しました。NEDOブースでは、再生可能エネルギーや燃料電池・水素の分野について、NEDOのこれまでに得られた最新の取り組み等を

紹介しました。また、12月6日には併設フォーラムとして「NEDOセッション」を開催し、再生可能エネルギーや燃料電池・水素、蓄電池、さらにはスマートグリッド・スマートコミュニティの実現に向けた、NEDOの取り組みについて紹介しました。



NEDOブースを視察されるコスタリカ大統領



NEDOブースの様子

「エコプロダクツ2011」

NEDOは12月15日から17日まで、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催された「エコプロダクツ2011」に出展しました。

今回のエコプロダクツ展は、エコプロダクツや関連技術、環境活動など、あらゆる「Green」な環境への取り組みを、みんなの力で復興へとつなげるとともに、震災からの復興に活用される環境技術や経験を日本から世界へ発信をテーマに開催されました。来場者も昨年に引き続き18万人を超え、環境学習を目的とした子供たちや学生の来場も2万人を超えました。NEDO

の展示ブースではスマートコミュニティに向けた取り組みや、太陽光発電、風力といった新エネルギーの技術に加え、光触媒といった環境技術など、NEDOが取り組んでいるエネルギー・環境分野の技術や事業の紹介を行いました。

また、展示ブースでは同時に、NEDOが主催する第23回「新エネ・太陽電池工作コンクール」の受賞作品の展示も行い、12月17日には会場内の特設ステージで、受賞者の表彰式を行いました。



NEDOデザイン賞「ひまばち」



NEDOブースの様子

海外における活動

「第4回日印エネルギーフォーラム」を開催

1月31日、NEDOはインド・エネルギー資源研究所(TERI)と共同で、「第4回日印エネルギーフォーラム」をインド・ニューデリーにおいて開催しました。日印エネルギー・フォーラムは、日印の官民のエネルギー関係者の情報交換の場として、2006年12月に第1回を開催し、約2年に一度開催されており、今回で4回目となります。今般のフォーラムでは、「省エネルギー」「再生可能エネルギー」「DMIC(デリー・ムンバイ間産業大動脈)地域関連」をテーマとする3つのセッションにおいて、日本からの共同事業の事例と、これらを今後も促進するための方法や、課題と対策等についてパネルディスカッションを行いました。

各セッションでは、パネリストや会場の参加者から、DMIC地域における日印共同事業の実施や日本の再生可能エネルギー、省エネルギー技術導入によるイ

ンドにおけるエネルギー効率改善への期待などが寄せられました。当日は日印の産業界をはじめ約300名の関係者が来場し、日印のエネルギー協力とその取り組みについての高い関心が改めて示されました。



DMICセッションのチェアマン総裁、渡邊理事とパネリスト

アブダビ「World Future Energy Summit 2012」に出展

NEDOは、1月16日から19日までアラブ首長国連邦(UAE)アブダビ首長国で開催された世界有数のエネルギー環境技術の展示会「World Future Energy Summit 2012」に出展し、NEDOの最新の取り組みとして中東・北アフリカ地域での実証事業、スマートコミュニティや再生可能エネルギー分野の技術などを紹介しました。18日には、パネルディスカッション「Technology Leaders in Future Energy」にNEDO古川理事長がパネリストとして参加し、エネルギー業界より参加されたパネリスト7名と、クリーンエネルギー技術について活発なディスカッションを行いました。ディスカッションでは、クリーンエネルギー技術の可能性と課

題、およびスマートグリッド技術の重要性が議論され、国や地域を含めた連携の必要性が強調されました。



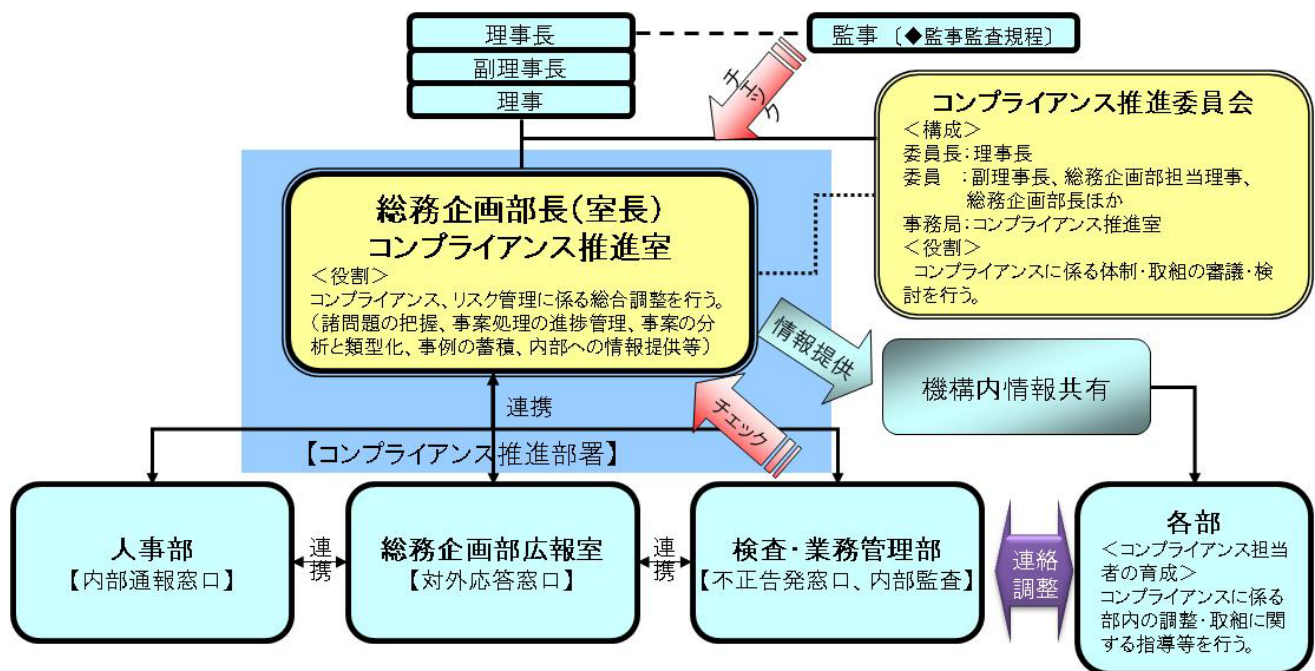
パネルディスカッション

10、コンプライアンス等に関する取り組み

コンプライアンス強化の取り組み

NEDOは、最先端の技術情報を取り扱う機関として、社会からの信頼を得られる組織としての高いモラルが必要であると認識しています。内部統制(ガバナンス)の強化、リスクマネジメント、法令遵守の3つを柱とした広義のコンプライアンスを推進するべく、2008年7月機構内にコンプライアンス推進室を設置し、以来絶えずコンプライアンスの強化に取り組んでいます。

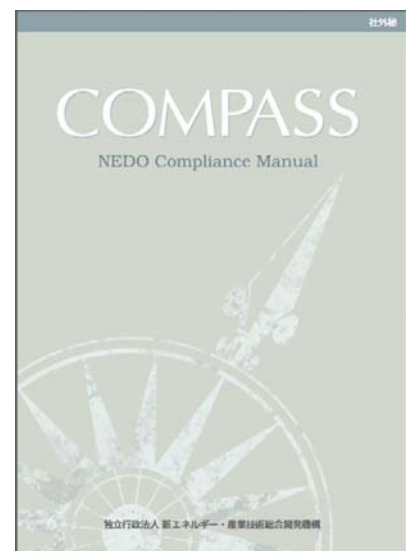
コンプライアンス推進室の上位には理事長を委員長としたコンプライアンス推進委員会を設置し、コンプライアンスに係る体制・取り組みが適切に行われているかの審議等を行っています。また、各事業部にコンプライアンス担当者を設置し、定期的に担当者会議を開催、情報を共有、問題の吸い上げ等を行っています。



NEDOのコンプライアンス推進体制

コンプライアンス推進室では、職員への意識啓発を大きなミッションとしています。職員としての行動指針を携帯可能な小冊子にまとめ、新規着任者研修で配布しています。行動倫理について十分な説明を行うとともに、時間の経過とともに意識が低下することを防ぐため、コンプライアンス研修を定期的実施しています(2011年度:内部講師12回、外部講師15回)。

さらに、コンプライアンス推進室から定期的に全職員宛てにメールで啓発を行うなどの取り組みを通じ、リスクを芽の段階で摘み取るべく、職員一人ひとりの意識の向上を図っています。

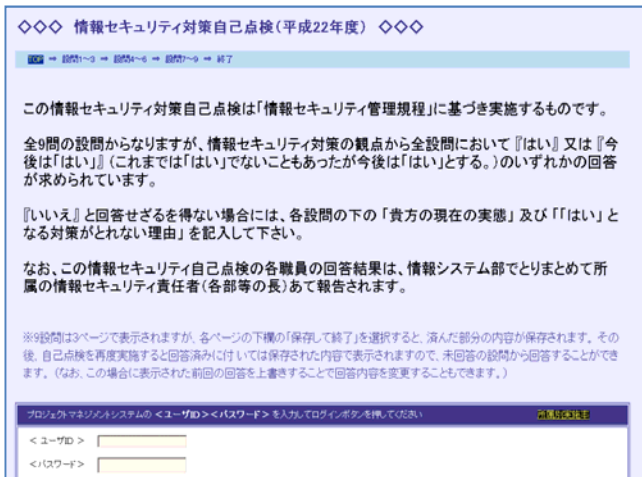


コンプライアンス指針をまとめた携帯用小冊子

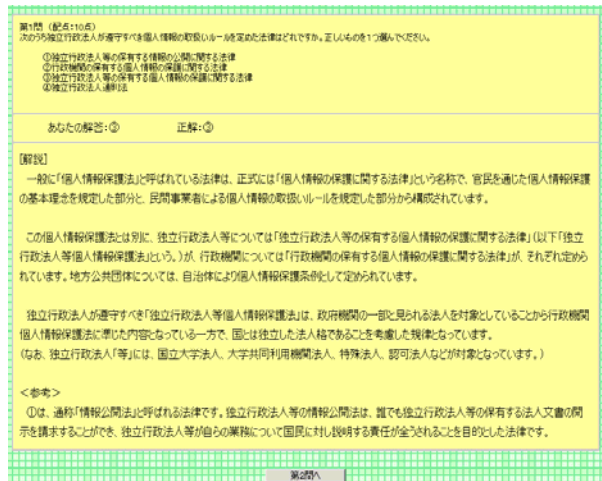
情報セキュリティ対策の強化

情報セキュリティ対策の強化については、シンクライアントを導入する等のシステム面から実施しています。当然のことながら、技術情報や個人情報の情報漏えいにつながるようなアクシデントを未然に防止するためには、役職員一人ひとりの行動が何よりも重要です。

改めて、全職員が日々の行動を振り返り、必要な修正に気がつくことができるよう、情報セキュリティ対策及び個人情報保護に係る自己点検を全職員に義務付けています。また、その結果をとりまとめて対策に反映するべく、eラーニングを実施しています。



情報セキュリティ対策自己点検
eラーニング



個人情報保護
eラーニング

メール誤送信による情報漏洩の未然防止

メールの宛先入力ミス等のヒューマンエラーによる個人情報、技術情報等の漏えいを厳に防止するた

め、システム上にメールの誤送信を防ぐ仕組みを導入し、情報流出の未然防止を図っています。

情報公開について

「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」にのっとり、NEDOが保有する情報の公開を積極的に進めています。ウェブサイトでは、組織に関する情報や財務に関する情報等を公開しています。

PC <http://www.nedo.go.jp/jyuhoukoukai/index.html>

各種調達に関する情報も公開しており、契約の透明性の確保に努めています。

PC <http://www.nedo.go.jp/koubo/index.html>



11、人材育成への取り組み

採用

毎年、大学卒業生、大学院修了者を対象に、新卒採用を行っています。出身の学部・学科を問わず、幅

広い人材を採用するため、公募により応募者を募集し、その後、書類審査、面接等を経て決定しています。

人事評価

個人評価は、組織の業務目標に即した個人目標や業務内容を上司と面談を行いながら設定し、その実績により評価を受ける仕組みになっています。多面的

かつ客観的に適切にレビューすることにより、評価結果を職員の処遇に適切に反映させるとともに、勤労意欲の向上を図っています。

人材育成

NEDOの根幹業務である技術開発のマネジメントを効果的に進めるためには、政策や技術動向を踏まえたプロジェクトの立案、運営、評価、さらに国の法律、会計に基づく様々なルールを理解する必要があります。一方、NEDOがプロジェクトマネジメントを円滑に進

めるには、組織を支える総務・経理・労務など管理業務も重要となります。このように、NEDOでは、プロジェクトマネジメントを第一線で担う職員、それを支える管理業務を行う職員の両方を育成するための研修制度を用意しています。

NEDO業務の基本習得と仕事の基礎能力向上

- 内定者研修、新人研修、階層別研修
- 業務関連研修：コンプライアンス、文書管理、契約・検査手続き、知財・資産管理等の研修

- 語学研修：国際業務を行う上で必要なビジネス英語、スキル別英語、中国語等の語学研修（レベルに応じて実施）

業務遂行能力の向上、専門知識の習得

- プロジェクトマネジメント研修：研究開発プロジェクトマネジメントを行う上で必要な実践的知識、ノウハウを習得する研修
- 会計・財務関連研修：独立行政法人特有の会計業務を行う上で必要な専門知識を習得する研修

- 職務研修：経理、簿記、法務など職務上必要な実務知識を習得する研修
- 知的財産関連研修
- 政策関連研修



外部派遣、その他

- 国内大学派遣制度：より高いマネジメントの実施に必要な知識を習得し、経験を積むため、大学院MOT、MBAコースなどへ派遣する制度
- 海外留学制度：若手職員の国際的センスの醸成を図り、国際関連業務などの効果的運営に資するため、海外の大学などへ派遣する制度

- 行政機関への派遣：政策立案プロセスなどの習得のため、経済産業省などへ行政事務研修員として派遣する制度
- 研修補助制度：職員の自己啓発のため、業務に関連する通信・通学講座などを修了した者に対し、費用の一部を補助する制度

12、快適な職場環境づくり

快適な職場環境づくりのため、職員の健康維持・促進及び緊急事態対応のため、次の活動を実施しています。

衛生委員会(労働時間等設定改善委員会)の活動

衛生委員会を設置し、職員の災害防止と健康障害を防止するための調査・審議を行うとともに、当該委員会を労働時間等設定改善委員会とみなし、勤務時

間及び職場環境の整備に向けた改善策やワーク・ライフバランスを考える取り組み、支援についても検討する活動を定例で行っています。

健康管理の取り組み

- ① 5月～7月(前期)、10月～12月(後期)にかけて健康診断を実施し、職員の健康障害や疾病の早期発見に努めると共に、職員自らが何時でも測定できるよう血圧計を設置し、体調管理に役立てています。また、健保組合加入者対象の人間ドックも年間を通じて積極的に実施しています。
- ② 産業医による面談を行い、健康相談やメンタルに関する相談を実施しています。

- ③職員やその家族へのインフルエンザなどの感染症予防策として、うがい・手洗いの徹底、マスクの着用、消毒用アルコールの使用等の周知徹底を図るとともに、緊急時に迅速な対応のできる危機管理体制(AED設置)を整備しています。



血圧計

メンタルヘルスケアの取り組み

厚生労働省より「職場におけるこころの健康づくり」の指針が発表されて以来、メンタルヘルス対策に注目して職員の「こころの健康」をサポートするべく、職場とは切り離された専門家のアドバイスを受け、必要に応じてカウンセラーによるカウンセリング、電話相談、専用ウェブサイトを利用してメンタルヘルスサービスを行う会社との契約を締結しています。また、産業カウンセ

ラーによる一般職員に対するストレスケアセミナーの開催でのセルフケア知識の習得や管理職へのラインケア研修などを実施してメンタルケア体制を整えています。



メンタルヘルス
関連資料

セクシュアル・ハラスメント等の防止に向けた取り組み

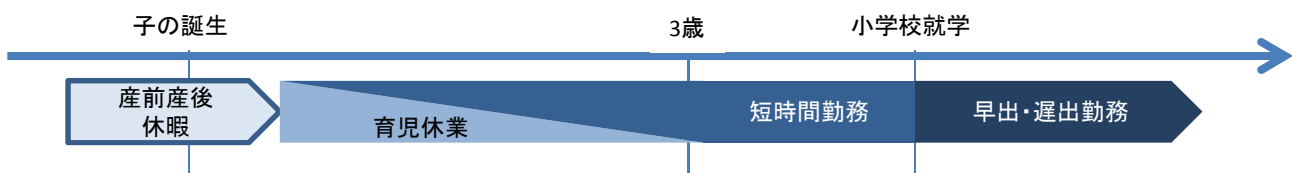
職場内におけるセクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント等のハラスメントを防止するため、これらハラスメントの防止に関する研修を実施しています。ま

た、2007年度から人事部にハラスメントの相談窓口を設置しています。

ワーク・ライフバランス

NEDOでは各種制度を充実させ、仕事と育児等の両立を支援しています。2011年度は従来の育児休業、短時間勤務といった制度に加えて、小学校に就

学している子をもつ職員への支援として早出・遅出勤務制度を導入しました。



救急救命対策

職員等の緊急事態に備えるため、救命救急器具である「AED」をオフィス内3ヶ所に導入するとともに、実際の操作方法等について、職員向けに研修を定期的に行っています。



AED

分煙の取組

NEDO事務所内において、職場における受動喫煙を防止するため、職員専用の喫煙室を設け「分煙方式」

をとり、所定の喫煙室以外での喫煙を終日禁止しています。

防災の取組

NEDO本部においては、フロア各所に防火責任者及び火元責任者を置き、火元管理に努めるとともに、防火管理者が毎週各フロアを巡回し火元等の点検を行っています。併せて、自衛消防隊の編成やマニュアルの整備、研修等の実施を行うなどの対策も行っていま

す。設備面では、職員が安全かつ迅速に避難できるよう、非常口各所に避難経路の表示パネル及び破壊具を設置しています。



避難経路



非常口の避難経路表示



緊急破壊具入れ



非常用装備品

事務所所在地等

<本部>

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310番地
 ミューザ川崎セントラルタワー 総合受付16階



詳細、最新の情報は、ウェブサイトにてご確認下さい。



<http://www.nedo.go.jp>

独立行政法人
 新エネルギー・産業技術総合開発機構

お問い合せ窓口 ウェブサイトの使い方 サイトマップ English

文字サイズ変更 小 中 大 サイト内検索 Google® カスタム検索 検索

ホーム 最近の動き ニュース 公募・調達 イベント

NEDOについて
 事業一覧
 NEDOライブ♪
 助成金・支援制度に関するお問い合わせ(お客様デスク)

NEDOについて
 ◎ 理事長挨拶
 ◎ 役割
 ◎ 主な事業と予算
 ◎ 主要プロジェクト
 ◎ 組織概要
 ◎ 役員・組織図
 ◎ 所在地・連絡先
 * 本部
 * 支部
 * 海外
 ◎ 財務情報
 ◎ 中期計画・年度計画
 ◎ 研究評価・事業評価
 ◎ 委員会
 * 研究評価委員会/評価委員会
 * 諮問委員会等
 ◎ 関連組織・団体
 ◎ シンボルマーク

ホーム > NEDOについて > 所在地・連絡先(支部)

所在地・連絡先(支部)

所在地

◎ 北海道支部
 〒090-0009
 北海道札幌市中央区北3条西3丁目1-47
 ヒューリック札幌NORTHGateビル6F
 TEL: 011-261-9355
 FAX: 011-221-4349

◎ 関西支部
 〒630-0001
 大阪府大阪市北区梅田3丁目3番10号
 梅田ダイヤビル16F
 TEL: 06-7670-2200
 FAX: 06-6844-4574

◎ 九州支部
 〒812-0011
 福岡県福岡市博多区博多駅前2丁目19番24号
 大宮センタービル16F
 TEL: 092-411-7831
 FAX: 092-471-6975

北海道支部 周辺地図 関西支部 周辺地図 九州支部 周辺地図



トップページ→NEDOについて→所在地・連絡先



発行：独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
総務企画部 総務課
2012年9月